

投資環境レポート

2012 年 4 月

本資料は 2012 年 4 月 5 日時点での利用可能な情報をもとに作成しています。



【目次】

| | |
|-------------------------------------|----|
| 経済見通し..... | 1 |
| 1. 日本経済..... | 1 |
| 2. 米国経済..... | 5 |
| 3. ユーロ圏経済..... | 9 |
| 4. (参考) B R I C s およびオーストラリア経済..... | 12 |
| 市場見通し..... | 17 |
| 1. 債券..... | 17 |
| 1-1. 国内債券..... | 17 |
| 1-2. 米国債券..... | 19 |
| 1-3. ユーロ圏債券..... | 19 |
| 2. 株式..... | 22 |
| 2-1. 国内株式..... | 22 |
| 2-2. 外国株式..... | 26 |
| 3. 為替..... | 28 |
| 3-1. ドル円..... | 28 |
| 3-2. ユーロドル..... | 28 |
| 4. 市場見通し(まとめ)..... | 30 |
| 【参考】当面の主要な政治・経済カレンダー..... | 32 |

経済見通し

1. 日本経済

海外経済の持ち直しと復興需要で、生産中心に当面は緩やかな回復を維持。

景気

【企業・生産】

2月の鉱工業生産指数は、自動車や情報通信機械においてタイの洪水による落ち込みを取り戻す動きが一服したことなどから前月比 1.2%と3ヵ月ぶりの低下となったが、3月、4月の生産予測指数はそれぞれ前月比+2.6%、同+0.7%と、2ヵ月連続の上昇が見込まれており、これに基づくと、1~3月の生産水準は10~12月対比+3.6%となる。

出荷・在庫バランスの改善や、これまで続いていた電子部品・デバイス工業の在庫調整の動きに進展がみられる。今後については、生産の牽引役である輸出の悪化にも歯止めが掛かってきており、当面増加基調を維持するものと予想される。

輸出については、先行指標となる主要国の製造業景況感指数において、ユーロ圏や新興国でやや頭打ち傾向にあるものの、依然米国中心に回復の動きが継続していることから、海外経済の成長を背景として、徐々に持ち直しに転じるものと予想される。

【雇用・消費】

雇用については、短観における先行きの雇用判断DIや新規求人数が改善基調を維持しているものの、実際には景気の先行き不透明感から足許の企業の採用意欲は総じて弱く、求人と求職のミスマッチも大きいことから雇用の増加ペースもかなり鈍いものとなっている。このため、所得の伸びも限定的であることから、個人消費の回復も緩やかなものにとどまろう。

【その他】

今後、第3次、4次の補正予算に伴う復興関連需要により政府固定資本形成、住宅投資については景気押し上げ要因として見込まれる。ただし、公共工事の先行指標となる請負金額については足許緩やかな増加傾向であるため一定程度の押し上げ効果が期待できるものの、瓦礫の処分や被災地の都市計画策定には、なお時間を要することから、本格的な押し上げ時期や具体的な効果はやや不透明である。

物価

2月の消費者物価(生鮮食料品を除く総合)は、前年比+0.1%(前月:同 0.1%)と5ヵ月ぶりに前年比プラスに転じる一方、食料・エネルギーを除く基調的な消費者物価は前年比 0.6%(前月:同 0.9%)と、前月に比べて下落幅を0.3%ポイント縮小した。ただし、一部の品目による押し上げの影響が大きく、全体としては緩やかな物価下落の状況が続いているといえる。

今後の消費者物価(生鮮食料品を除く総合)は、国際商品市況の前年比伸び率鈍化が低下に寄与する一方、企業のコスト削減により賃金の伸びも期待しにくく、当面マイナス幅が拡大する可能性が高く、基調としてプラスとなる時期は12年度内においても展望しにくい。

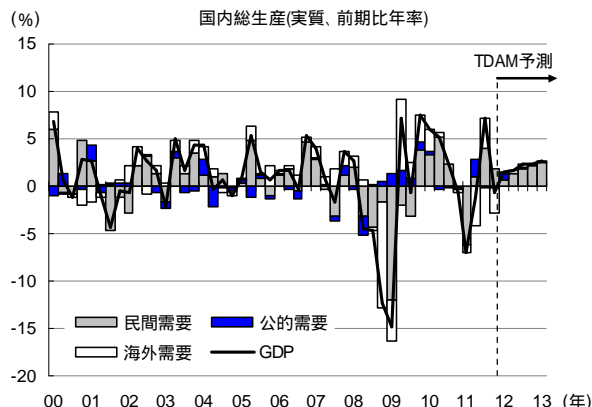
【経済予測表】

| | 2009年度 | | 2010年度 | | 2011年度 (TDAM予測) | | 2012年度 (TDAM予測) | |
|---------------|--------|---------|--------|---------|--------------------|---------|--------------------|---------|
| | 前年比(%) | 寄与度(%) | 前年比(%) | 寄与度(%) | 前年比(%) | 寄与度(%) | 前年比(%) | 寄与度(%) |
| 実質国内総生産(GDP) | ▲ 2.1 | - | 3.1 | - | 0.1 | - | 2.1 | - |
| 国内需要 | ▲ 2.2 | (▲ 2.2) | 2.4 | (2.4) | 1.1 | (1.1) | 2.1 | (2.1) |
| 民間需要 | ▲ 4.2 | (▲ 3.2) | 3.0 | (2.2) | 0.9 | (0.7) | 2.5 | (1.9) |
| 民間最終消費支出 | 1.2 | (0.7) | 1.5 | (0.9) | 0.6 | (0.4) | 1.2 | (0.7) |
| 民間住宅 | ▲ 21.0 | (▲ 0.7) | 2.3 | (0.1) | 3.7 | (0.1) | 2.7 | (0.1) |
| 民間企業設備 | ▲ 12.0 | (▲ 1.7) | 3.5 | (0.4) | 1.6 | (0.2) | 8.2 | (1.1) |
| 公的需要 | 4.2 | (1.0) | 0.5 | (0.1) | 1.8 | (0.4) | 0.7 | (0.2) |
| 財貨・サービスの純輸出 | - | (0.2) | - | (0.8) | - | (▲ 0.9) | - | (0.1) |
| 財貨・サービスの輸出 | ▲ 9.8 | (▲ 1.6) | 17.2 | (2.3) | ▲ 1.6 | (▲ 0.3) | 3.0 | (0.5) |
| 財貨・サービスの輸入 | ▲ 10.7 | (1.7) | 12.0 | (▲ 1.5) | 5.0 | (▲ 0.7) | 3.0 | (▲ 0.4) |
| 名目国内総生産(前年比) | ▲ 3.2 | | 1.1 | | ▲ 1.7 | | 1.6 | |
| デフレーター(前年比) | ▲ 1.2 | | ▲ 1.9 | | ▲ 1.8 | | ▲ 0.5 | |
| 主要経済指標(前年比) | | | | | | | | |
| 鉱工業生産 | ▲ 9.2 | | 9.0 | | ▲ 2.1 | | 7.2 | |
| 消費者物価(除く生鮮食品) | ▲ 1.6 | | ▲ 0.9 | | ▲ 0.1 | | ▲ 0.0 | |

出所: 内閣府、経済産業省、総務省、Bloomberg より TDAM 作成

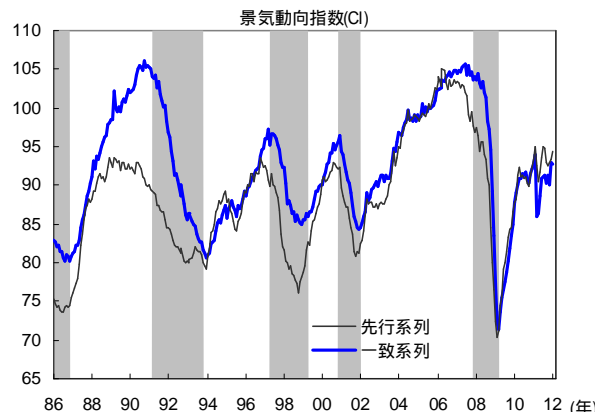
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

11 年度 4Q 以降は、緩やかな回復が持続する見通し



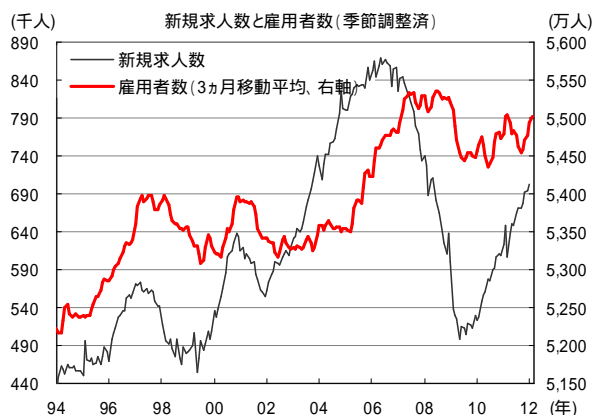
出所: 内閣府、Bloomberg より TDAM 作成

CI は、先行、一致ともに、改善傾向



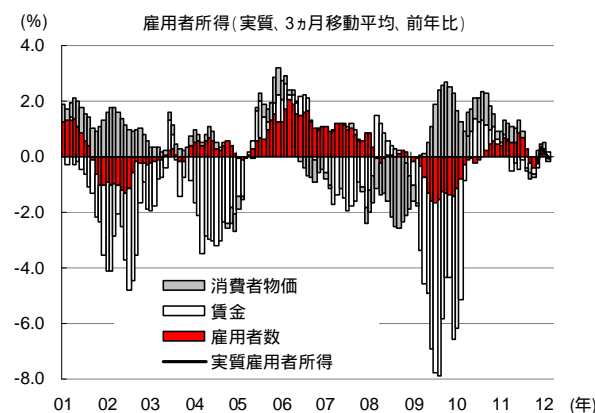
注: グレー部分は景気後退期をあらわす。
出所: 内閣府、Bloomberg より TDAM 作成

新規求人数は回復基調を維持するものの、雇用の伸びは限定的



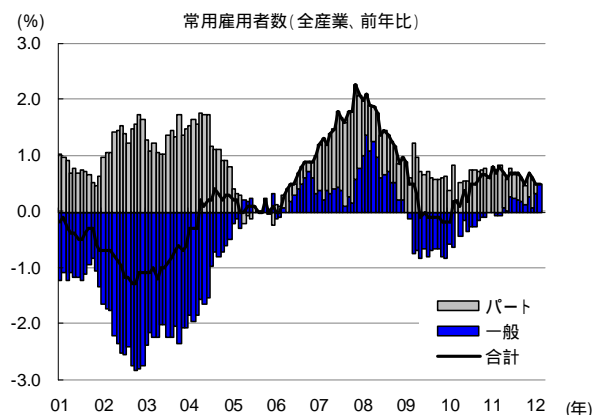
注: 雇用者数のうち、2011 年 3 月～8 月は、岩手、宮城および福島県の 3 県を一定とした。
出所: 総務省、厚生労働省、Bloomberg より TDAM 作成

実質雇用者所得は緩慢ながら持ち直し



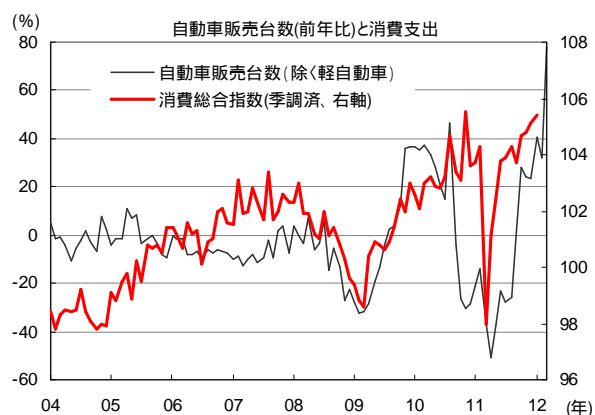
注: 実質雇用者所得、雇用者数のうち、2011 年 3 月～8 月は、岩手、宮城および福島県の 3 県を一定とした。
出所: 総務省、厚生労働省、Bloomberg より TDAM 作成

雇用は緩やかな回復が継続



出所: 厚生労働省、Bloomberg より TDAM 作成

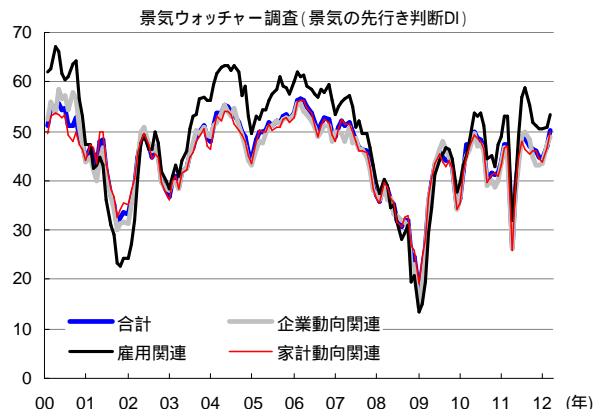
自動車販売は、エコカー補助金再開で1月以降大幅に増加



出所: 日本自動車販売協会連合会、内閣府、Bloomberg より TDAM 作成

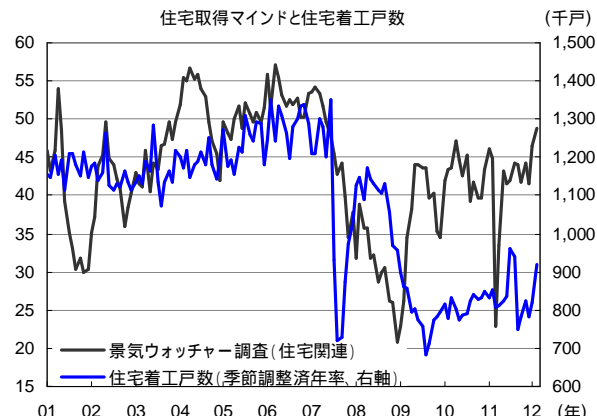
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

マインドは震災前を上回る水準まで回復



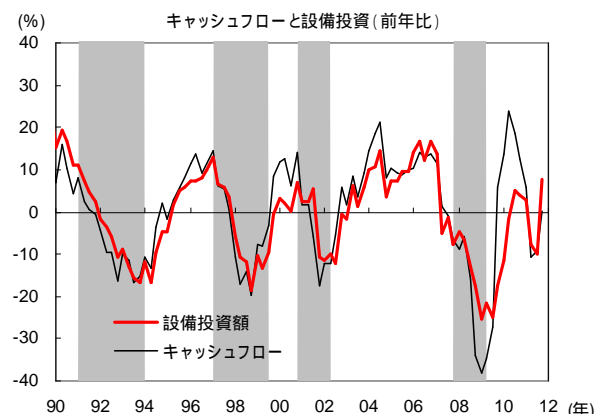
出所: 内閣府、Bloomberg より TDAM 作成

住宅着工戸数は足許で持ち直し傾向



出所: 内閣府、国土交通省、Bloomberg より TDAM 作成

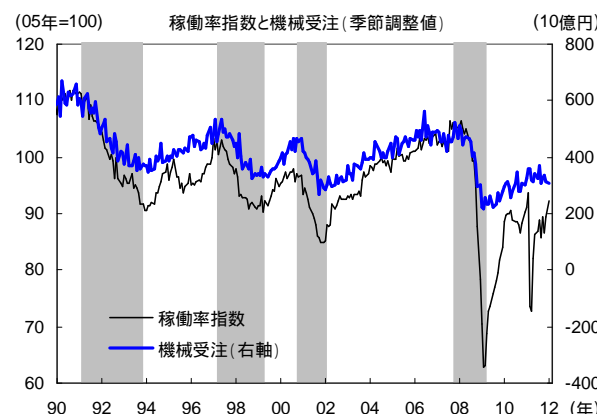
10-12月期の設備投資は復興需要もあり堅調な結果



注: キャッシュフロー = 経常利益(税金相当 50%控除) + 減価償却費。
グレー部分は景気後退期をあらわす。

出所: 財務省、FACTSET より TDAM 作成

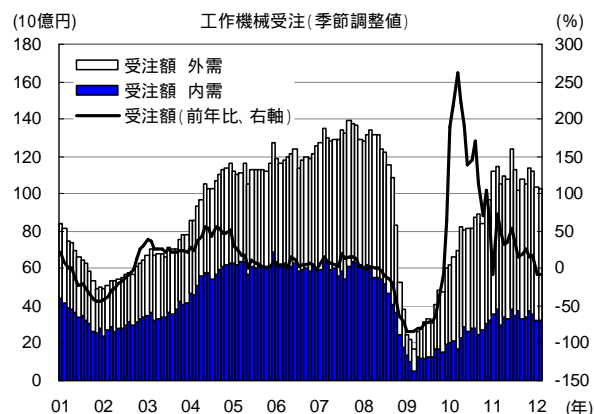
稼働率の改善進まず、設備投資の回復も緩慢



注: グレー部分は景気後退期をあらわす。

出所: 内閣府、経済産業省、Bloomberg より TDAM 作成

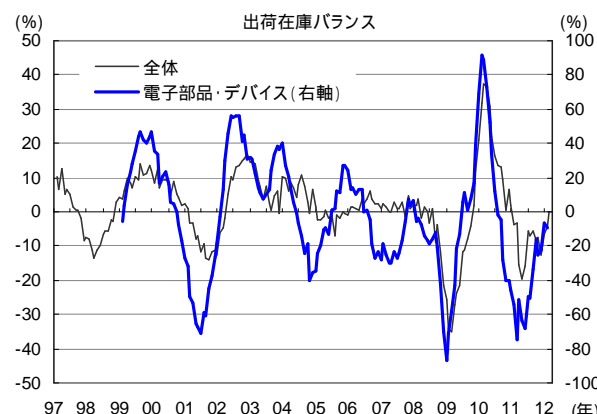
工作機械受注は底堅い海外需要が牽引



注: 季節調整は TDAM による。

出所: 日本工作機械工業会、Bloomberg より TDAM 作成

出荷在庫バランスは足許改善

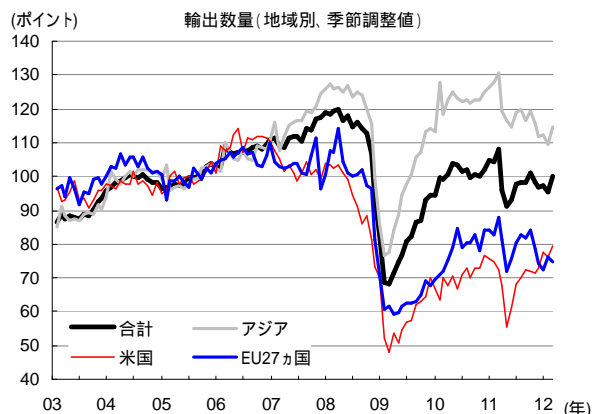


注: 出荷在庫バランス = 出荷(前年比) - 在庫(前年比)。

出所: 経済産業省、Bloomberg、FACTSET より TDAM 作成

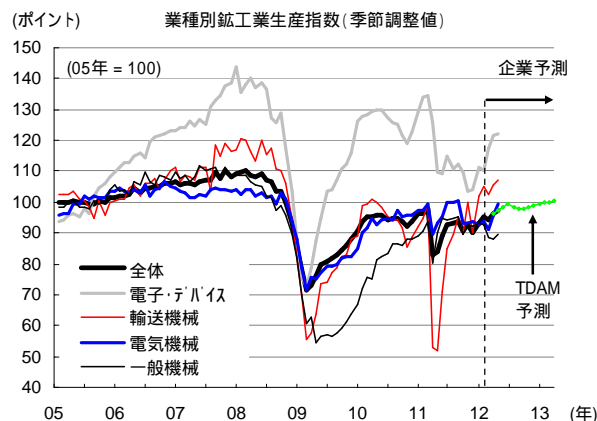
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

輸出は米、アジアで下げ止まり傾向



注: 季節調整は TDAM による。
出所: 財務省、Bloomberg より TDAM 作成

生産は、外需の下げ止まりで、再度回復に



出所: 経済産業省、Bloomberg より TDAM 作成

中国経済の減速一服で、中国向け輸出も下げ止まりの兆し



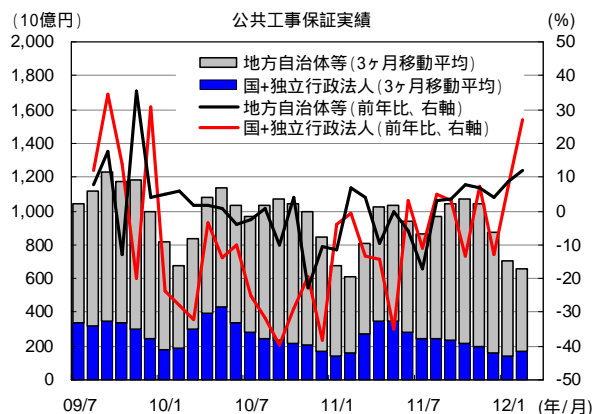
出所: Bloomberg より TDAM 作成

海外からの機械需要は足許で持ち直し



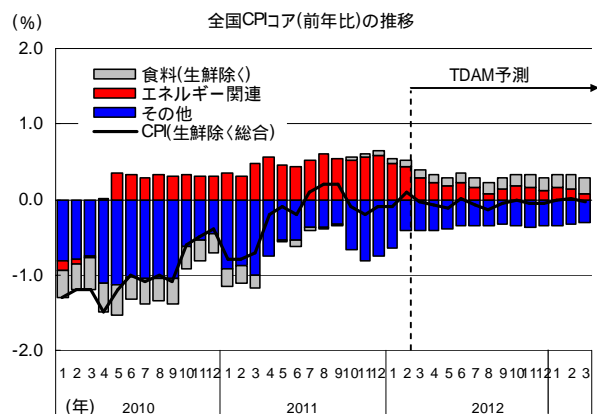
注: 2004 年度以前は携帯電話受注を含むため、連続性が途切れている。
出所: 内閣府、財務省、Bloomberg より TDAM 作成

復興需要に伴う公共工事は足許緩やかに増加傾向



出所: 保証会社各社より TDAM 作成

CPI コアは当面前年比ゼロ近傍で推移する見込み



注: 2011 年 1 月以降は 2010 年基準による 2010 年と 2011 年の結果を用いて算出
出所: 総務省より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

2. 米国経済

製造業主導で回復基調を維持。

景気

【企業・生産】

新興国の需要やドル安を背景に、製造業の受注見通しが改善していることから、今後も生産の増加が予想される。輸出についても、足許、3月のISM輸出受注見通しはやや鈍化したものの依然高水準にあり、アジアを中心としたIT需要には持ち直しの動きが見られることから、今後も緩やかながら増加が見込まれる。

【雇用・消費】

雇用については、企業の採用意欲が非製造業や中小企業を中心に徐々に持ち直していることから、緩やかながら当面改善傾向を維持する可能性が高いと思われる。個人消費も、足許のガソリン価格上昇の影響が懸念されるものの、今のところ消費マインドの腰折れは見られず、当面は雇用の改善に伴い底堅い推移が期待される。

【住宅】

緩やかな雇用の改善や住宅価格の割安感から、先行指標となる住宅業者のマインドは大幅に改善しており、販売件数も中古物件中心に増加基調を示している。条件緩和で一時的に差し押さえを免れている物件が相当数あることから住宅価格の下押し圧力は依然高く明確な反転までは期待しにくいものの、景気の回復とともに住宅の需給バランス調整が進展する可能性が高まっている。

物価

消費者物価(食品とエネルギー - を除く)は、10年10月以降プラス幅を緩やかに拡大させてきており、1月は前年比で+2.2%となった。上昇の主な要因は、エネルギー関連、持ち家から貸家へのシフトに伴う家賃、ドル安に伴う輸入物価等の上昇によるものである。ただし今後は、一次産品価格上昇による物価押し上げ効果は一巡しつつあることなどから前年比伸び率も緩やかに鈍化する見通し。

【経済予測表】 米国国内総生産(GDP)予測

(%)

| | 前期比年率 | | | | | | | | 前年比 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|
| | 11Q1 | 11Q2 | 11Q3 | 11Q4 | 12Q1予 | 12Q2予 | 12Q3予 | 12Q4予 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012予 |
| 実質国内総生産 | 0.4 | 1.3 | 1.8 | 3.0 | 2.1 | 2.1 | 2.3 | 2.3 | ▲0.3 | ▲3.5 | 3.0 | 1.7 | 2.2 |
| 個人消費 | 2.1 | 0.7 | 1.7 | 2.1 | 1.7 | 2.0 | 2.3 | 2.4 | ▲0.6 | ▲1.9 | 2.0 | 2.2 | 1.9 |
| 設備投資 | 2.1 | 10.3 | 15.7 | 2.8 | 5.1 | 10.4 | 10.1 | 13.6 | ▲9.4 | ▲14.4 | 11.1 | 7.6 | 5.3 |
| 住宅投資 | ▲2.5 | 4.2 | 1.2 | 11.5 | 10.4 | 2.5 | 5.1 | 10.4 | ▲24.4 | ▲12.9 | ▲6.3 | 3.5 | 4.3 |
| 在庫投資 (10億ドル) | 10.8 | ▲10.0 | ▲41.1 | 56.3 | 5.7 | ▲5.0 | 10.0 | ▲45.0 | ▲231.0 | 299.2 | ▲140.6 | ▲40.3 | 42.5 |
| 純輸出 (10億ドル) | ▲424.3 | ▲416.4 | ▲402.7 | ▲404.5 | ▲400.0 | ▲405.2 | ▲430.0 | ▲420.0 | ▲15.3 | ▲27.4 | 19.4 | ▲2.3 | 2.3 |
| 政府支出 | ▲5.9 | ▲0.9 | ▲0.1 | ▲4.4 | 0.0 | ▲0.8 | ▲0.8 | ▲1.0 | 2.7 | 1.1 | 0.1 | ▲2.8 | ▲0.3 |
| 名目国内総生産 | 3.1 | 4.0 | 4.4 | 3.9 | 3.3 | 4.3 | 4.4 | 4.4 | 1.9 | ▲2.5 | 4.2 | 3.9 | 4.0 |

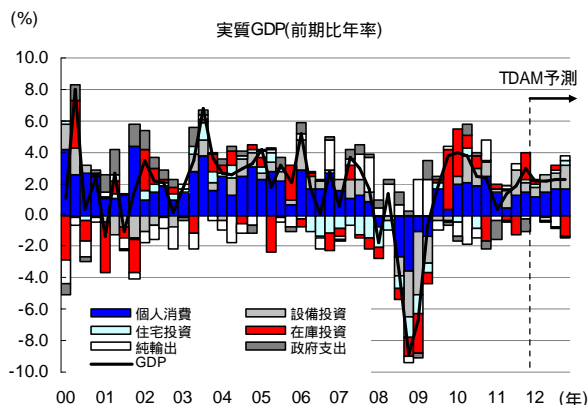
注: 在庫投資は前期(年)差、純輸出は実額。

| | 前年同期比年率 | | | | | | | | 前年比 | | | | |
|-------------|---------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|-------|
| | 11Q1 | 11Q2 | 11Q3 | 11Q4 | 12Q1予 | 12Q2予 | 12Q3予 | 12Q4予 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012予 |
| 実質国内総生産 | 2.2 | 1.6 | 1.5 | 1.6 | 2.1 | 2.3 | 2.4 | 2.2 | - | - | - | - | - |
| CPIコア | 1.2 | 1.6 | 2.0 | 2.2 | 2.2 | 2.0 | 1.9 | 1.9 | - | - | - | - | - |
| PCEデフレーターコア | 1.0 | 1.4 | 1.6 | 1.9 | 2.0 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 1.7 | 0.9 | 1.9 | 1.8 |

出所: Bloomberg より TDAM 作成

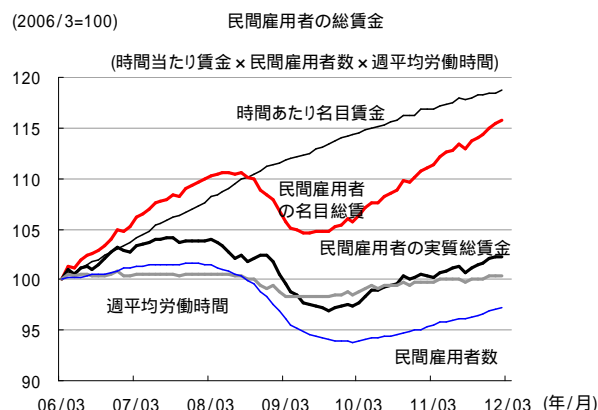
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

GDP は穏やかながら回復が継続する見通し



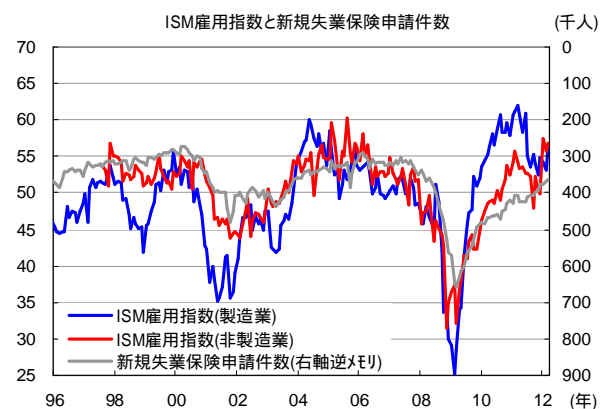
出所: Bloomberg より TDAM 作成

雇用所得環境は穏かに改善



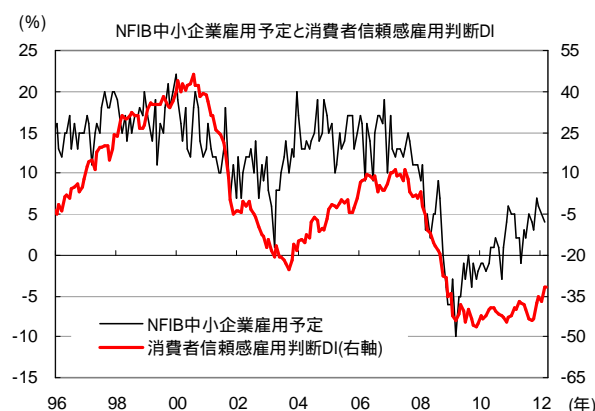
注: 民間雇員の実質総賃金は、名目総賃金を個人消費デフレーターで実質化。未発表の個人消費デフレーターは直近発表値で代用。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

大企業の雇用見通しは改善傾向継続



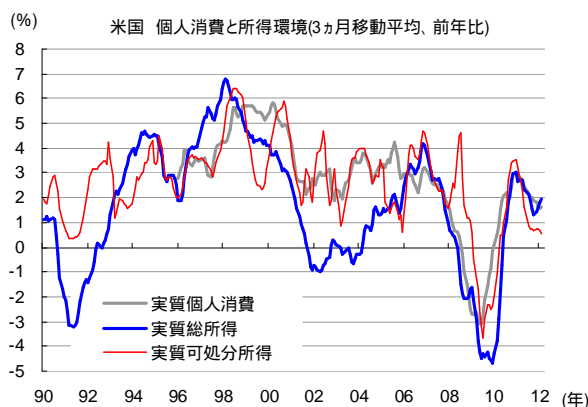
出所: Bloomberg より TDAM 作成

中小企業の雇用予定も改善傾向で推移



注: NFIB(全米独立企業連盟)
消費者信頼感雇用判断DI = 職が豊富-職を見つけるのが困難
出所: Bloomberg より TDAM 作成

実質可処分所得は前年比で下げ止まりの兆し



出所: Bloomberg より TDAM 作成

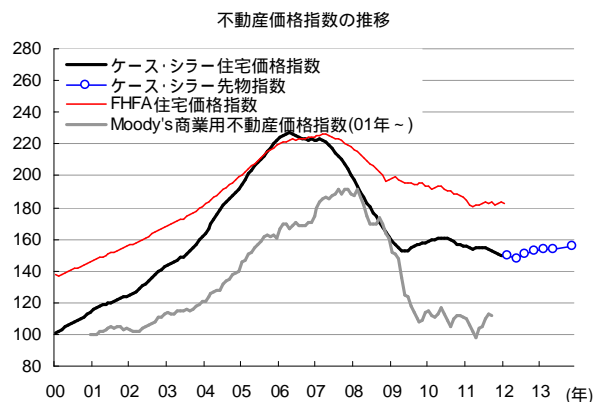
債務支払い比率は引き続き低下傾向



出所: Bloomberg より TDAM 作成

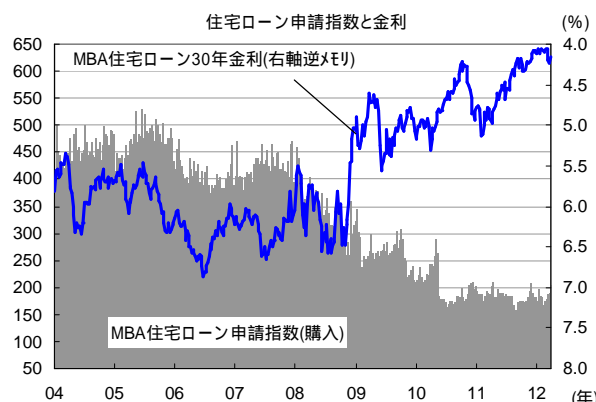
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

先物指数は住宅価格の下げ止まりを示唆



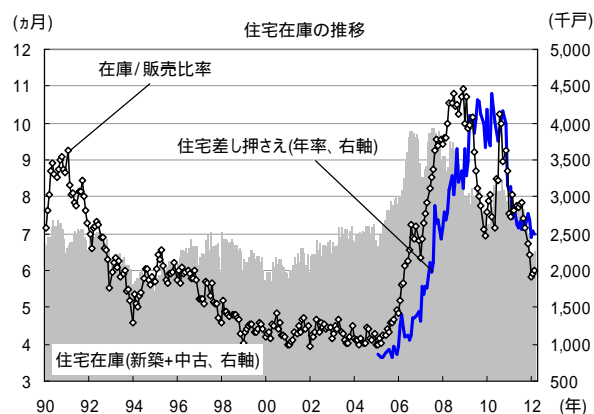
注: FHFA(米連邦住宅金融局)
出所: BloombergよりTDAM作成

ローン審査の厳格化に伴い、住宅ローン申請(購入)は依然低水準



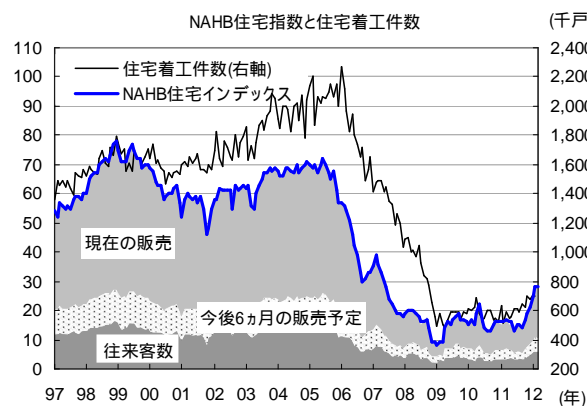
注: MBA(全米抵当貸付銀行協会)
出所: BloombergよりTDAM作成

住宅販売の回復や低水準の供給を受けて在庫率は改善



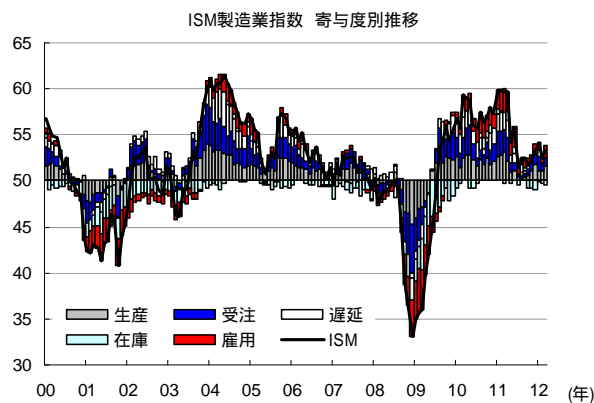
出所: BloombergよりTDAM作成

住宅業界の見通しは大幅改善



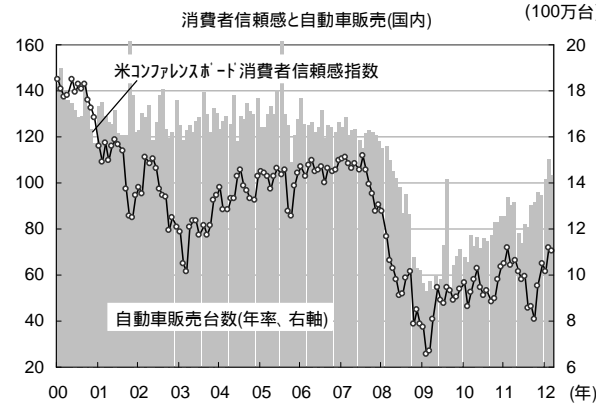
注: NAHB(全米住宅建設業者協会)
出所: BloombergよりTDAM作成

製造業景況感は堅調に推移



出所: BloombergよりTDAM作成

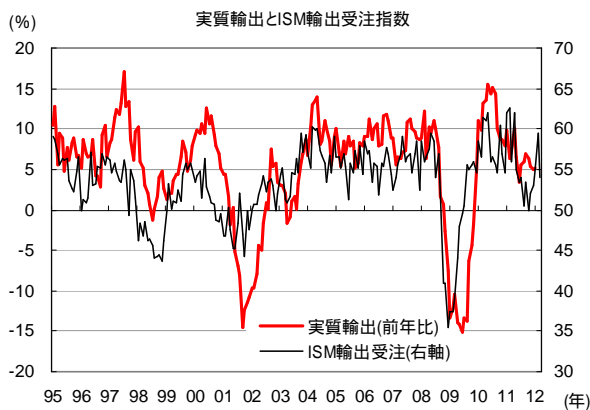
自動車販売は12年1月以降、年率14百万台を超えて推移



注: 米コンファレンスボード(全米産業審議会、米国の経済団体、労働組合などで構成する非営利の民間調査機関)。
出所: BloombergよりTDAM作成

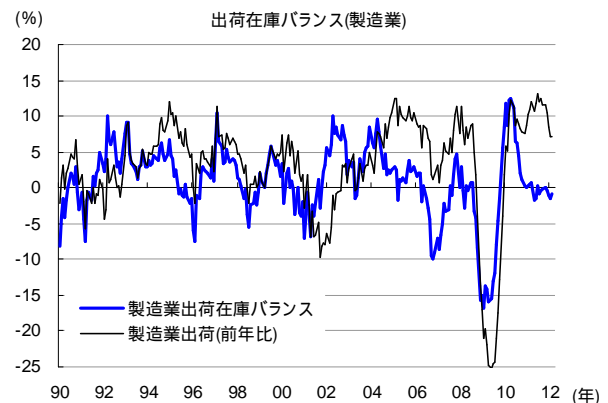
【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

輸出の先行指標は足許で増加傾向



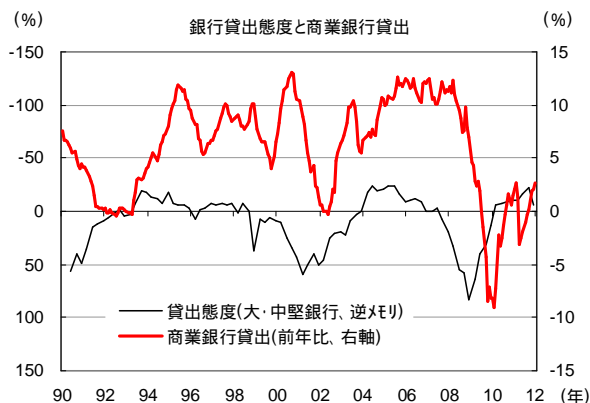
出所: Bloomberg より TDAM 作成

出荷在庫バランスのモメンタムは足許鈍化



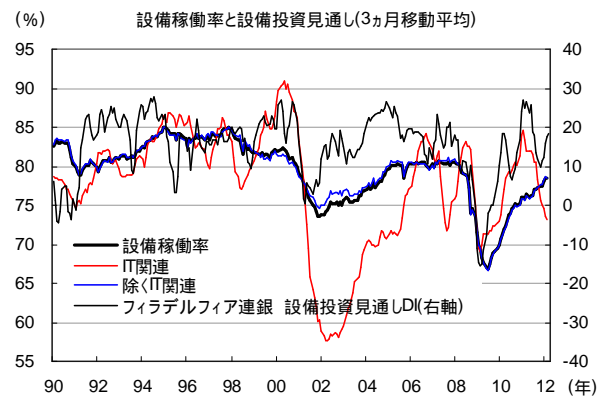
出所: Bloomberg より TDAM 作成

貸出態度はやや厳格化



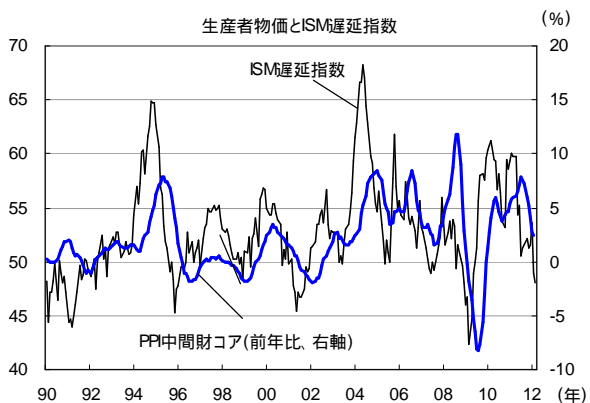
注: 貸出態度は融資基準を厳しくしたと回答した銀行の比率。
出所: FRB より TDAM 作成

稼働率、設備投資見通しは改善傾向



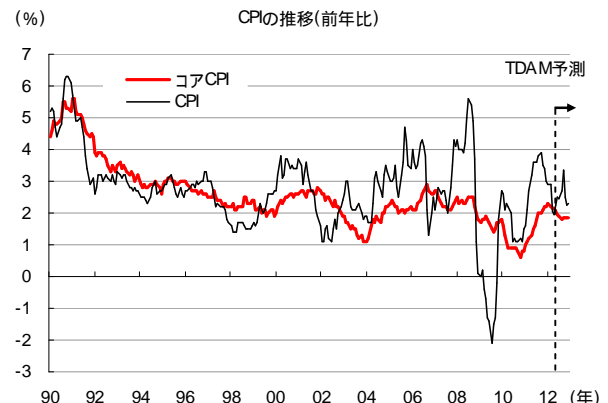
出所: Bloomberg より TDAM 作成

遅延指数は川上のインフレ圧力緩和を示唆



出所: Bloomberg より TDAM 作成

コアインフレ率は2%前後で安定推移する見通し



出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

3. ユーロ圏経済

牽引役の製造業景況感も頭打ちで、回復感の乏しい状況が継続。

景気

【企業・生産】

ECBの長期オペ実施による金融機関の資金繰り安定やユーロ安による輸出改善期待を背景にこれまで3ヵ月連続で改善傾向にあったユーロ圏製造業景況感指数(PMI)は3月47.7と2月の49.0から悪化に転じ、景況感の改善と悪化の分岐点の50を8ヵ月連続で割り込んだ。周辺国の低迷が続くなか、ドイツやフランスなど中核国も悪化した。ユーロ圏債務問題に伴う金融システム不安や緊縮財政による域内需要の低迷もあり、非製造業も含めた総合の企業景況感も2、3月と50割れが続き、持続的な持ち直しを期待するのは難しい状況が続く。

【雇用・消費】

雇用環境は、2月のユーロ圏失業率は10.8%(前月10.7%)と、財政緊縮を強化した国で総じて雇用情勢の悪化が顕著でユーロ圏全体での失業者数も過去最高を更新している。個人消費も、消費マインドがユーロ圏債務問題への懸念や緊縮的な財政政策の影響もあって依然として悪化傾向にあり、低迷が予想される。

【財政】

依然、周辺国の債務問題は不透明感が強く、ユーロ圏経済における最大のリスク要因となっている。債務危機に瀕していたギリシャは、2月21日にユーロ圏各国が第2次支援に達し、民間部門による国債減免も実施されたことで、目先の無秩序なデフォルトに陥るリスクは後退した。しかし、民間での債務再編を実施してもギリシャの財政再建の行方は依然疑問視されたままである。5月上旬に予定されている議会総選挙や、財政再建度合いの進捗が検証される四半期ごとのレビューが注目される。また、今年GDP3%規模の緊縮財政を行うイタリア、スペインをはじめとする周辺国の緊縮財政による景気への下押し圧力はこれからさらに顕在化する可能性が高く、ユーロ圏全体としても当面底ばいでの成長にとどまる見込みである。

物価

消費者物価は、足許(12年3月)前年比+2.6%(前月+2.7%)で、ECBの中期的な物価運営目標である「2%をやや下回る水準」を16ヵ月連続で上回ったものの、エネルギーや食料品価格の影響一巡により低下基調での推移となっている。今後も、商品価格中心に前年比効果が剥落するため2%を下回る程度までの低下が見込まれるが、足許の資源価格の上昇もあり、下落幅は限定的となる可能性が高まっている。

【経済予測表】 ユーロ圏国内総生産(GDP)予測

(%)

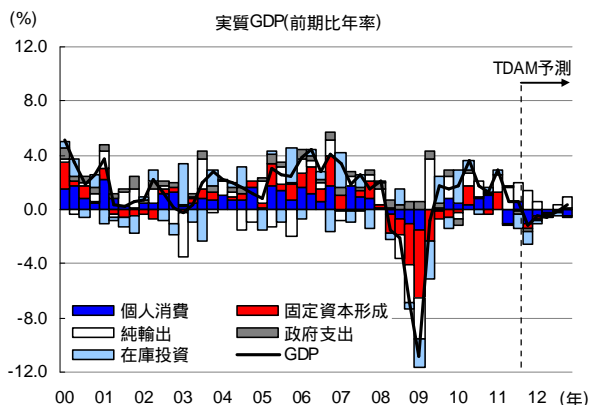
| | 前年比 / 前期比 | | | | | | | 寄与度 前年比 / 前期比 | | | | | | |
|--------------|-----------|-------|------|--------|-------|------|-------|---------------|------|--------|------|------|------|------|
| | 2010年 | 2011年 | | 2012年予 | | | 2010年 | 2011年 | | 2012年予 | | | | |
| | | 上期 | 下期 | 上期予 | 下期予 | 上期 | | 下期 | 上期予 | 下期予 | | | | |
| 実質国内総生産(GDP) | 1.9 | 1.5 | 1.0 | 0.1 | ▲0.3 | ▲0.3 | ▲0.1 | 1.9 | 1.5 | 1.0 | 0.1 | ▲0.3 | ▲0.3 | ▲0.1 |
| 内需 | 1.1 | 0.6 | 0.4 | ▲0.4 | ▲0.9 | ▲0.6 | ▲0.2 | 1.1 | 0.5 | 0.4 | ▲0.4 | ▲0.9 | ▲0.6 | ▲0.2 |
| 消費 | 0.9 | 0.7 | ▲0.1 | ▲0.2 | ▲0.6 | ▲0.4 | ▲0.1 | 0.5 | 0.4 | ▲0.0 | ▲0.1 | ▲0.3 | ▲0.2 | ▲0.1 |
| 政府支出 | 0.6 | 0.1 | 0.1 | ▲0.3 | ▲0.6 | ▲0.3 | ▲0.2 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | ▲0.1 | ▲0.1 | ▲0.1 | ▲0.1 |
| 民間投資 | ▲0.6 | 1.7 | 1.6 | ▲0.3 | ▲0.7 | ▲0.4 | ▲0.2 | ▲0.1 | 0.3 | 0.3 | ▲0.0 | ▲0.1 | ▲0.1 | ▲0.0 |
| 在庫投資 | 38.4 | ▲15.8 | 3.9 | ▲7.6 | ▲23.6 | ▲7.0 | ▲2.0 | 0.5 | ▲0.2 | 0.1 | ▲0.2 | ▲0.3 | ▲0.2 | ▲0.1 |
| 純輸出 | - | - | - | - | - | - | - | 0.8 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 輸出 | 11.5 | 6.7 | 3.2 | 2.2 | 3.5 | 1.3 | 2.2 | 4.8 | 3.1 | 1.5 | 1.0 | 1.7 | 0.6 | 1.1 |
| 輸入 | 9.7 | 4.7 | 2.0 | 1.3 | 2.5 | 0.9 | 2.0 | 3.9 | 2.0 | 0.9 | 0.6 | 1.1 | 0.4 | 0.9 |
| 消費者物価(前年比) | 2.2 | 2.7 | 2.7 | 2.7 | 1.6 | 2.1 | 1.6 | - | - | - | - | - | - | - |

注: 消費者物価は前年比の数値。

出所: Bloomberg より TDAM 作成

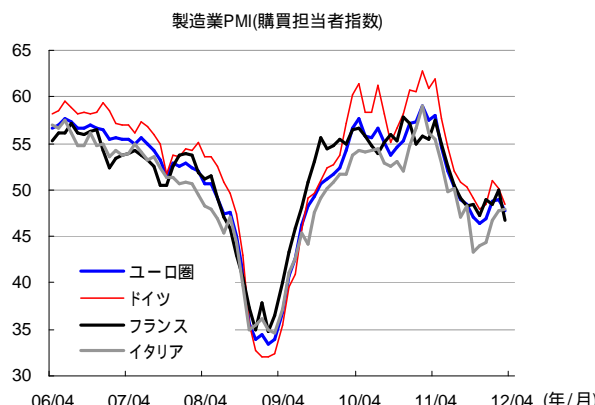
【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

緊縮財政を受けて、ユーロ圏景気は低迷する見通し



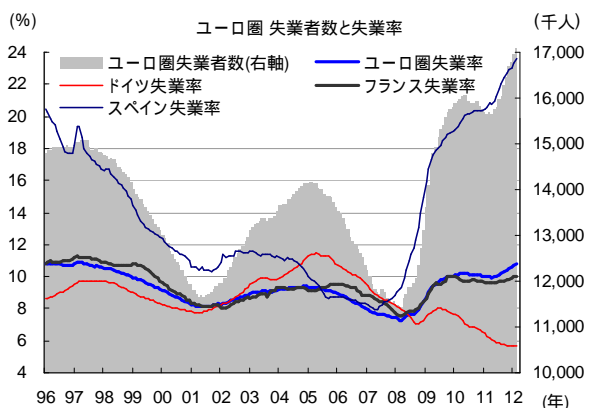
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロ圏製造業景況感は改善基調が頭打ちに



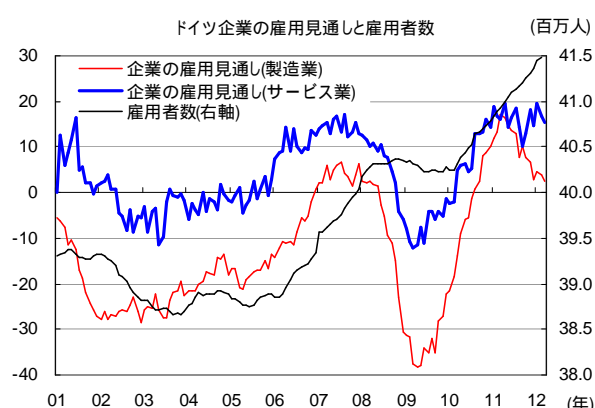
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロ圏失業率は重債務国中心に悪化傾向



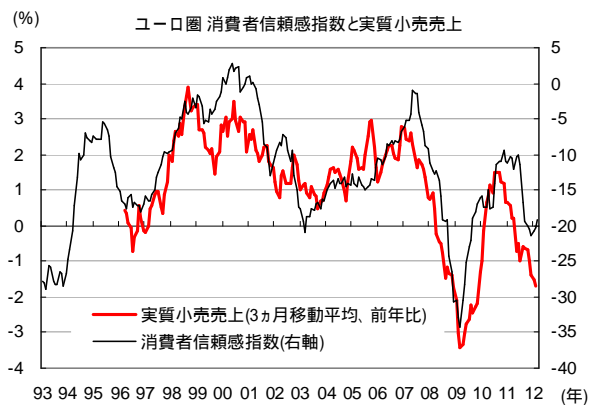
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ドイツ企業雇用見通しはサービス業で堅調



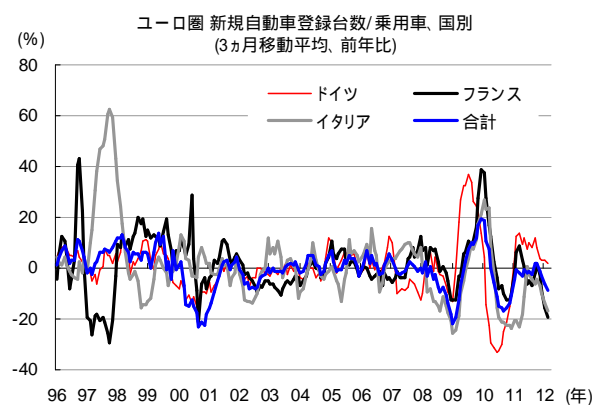
出所: Bloomberg より TDAM 作成

緊縮財政や増税を受けて重債務国中心に個人消費は低迷



出所: Bloomberg より TDAM 作成

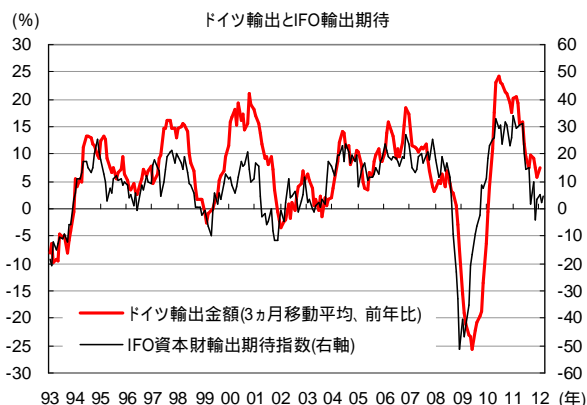
自動車販売も、ドイツでは底堅いものの、ユーロ圏全体では低迷



出所: Bloomberg より TDAM 作成

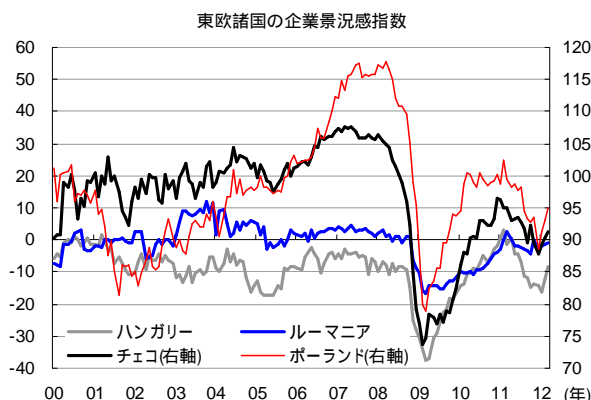
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

ドイツ輸出期待は下げ止まり



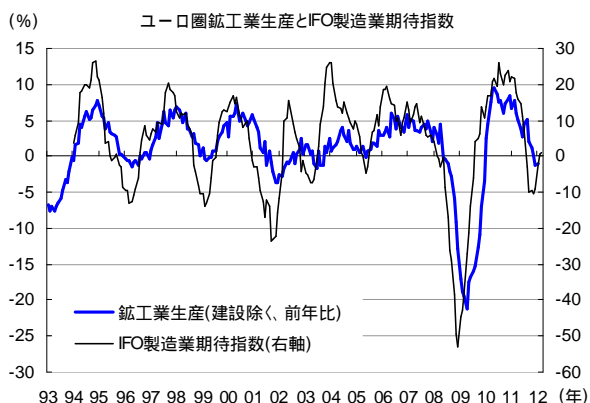
出所: Bloomberg より TDAM 作成

東欧諸国の景況感は反転上昇



出所: Bloomberg より TDAM 作成

依然底堅さを見せるドイツの IFO 製造業景況感



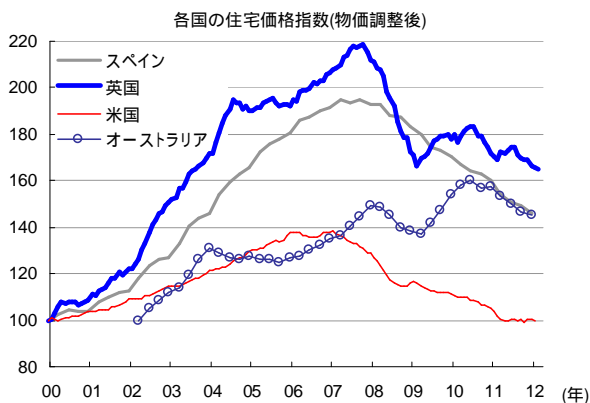
出所: Bloomberg より TDAM 作成

新規受注は前年比では依然減速傾向



出所: Bloomberg より TDAM 作成

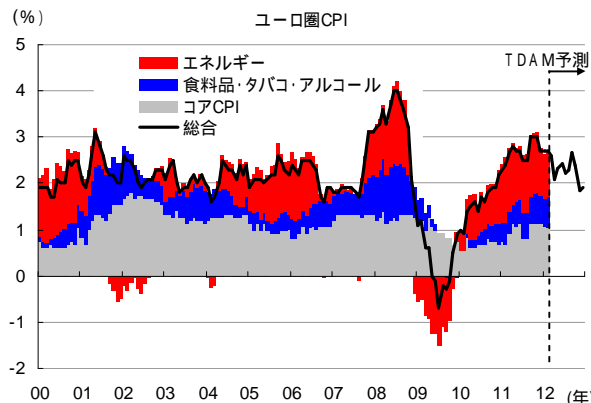
住宅価格はスペインで下落継続



注: 各国の消費者物価指数により実質化、1999 年 12 月(オーストラリアは 2002 年 3 月)を 100 として指数化。

出所: Bloomberg より TDAM 作成

足許のエネルギー価格上昇を受けて CPI は高止まりの可能性も

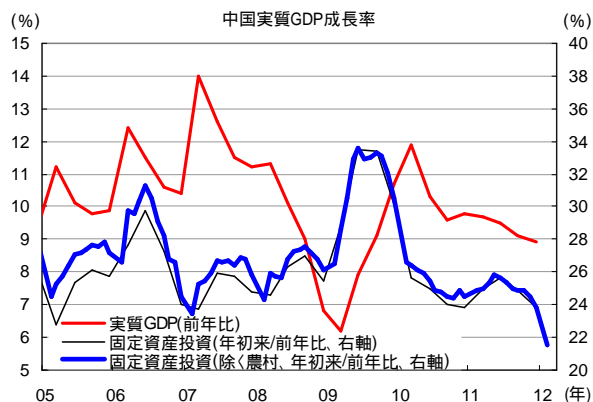


出所: Bloomberg より TDAM 作成

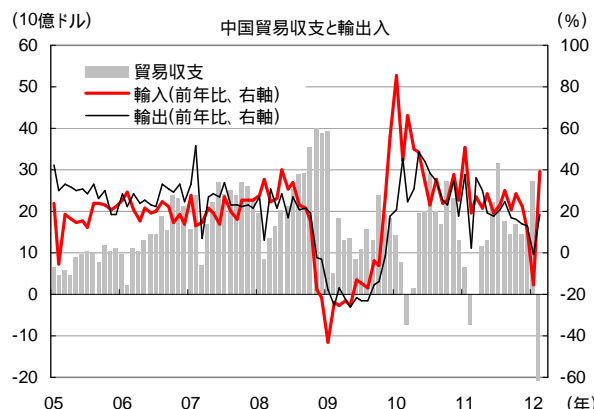
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

4. (参考) B R I C s およびオーストラリア経済

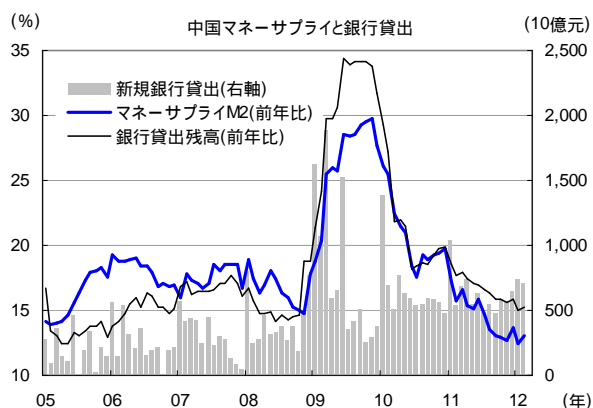
(1) 中国経済および市況関連



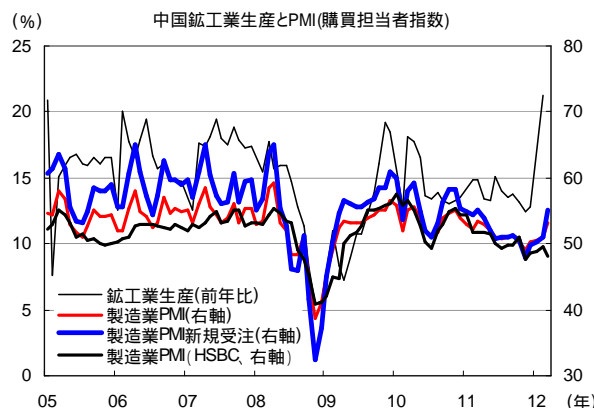
出所: Bloomberg より TDAM 作成



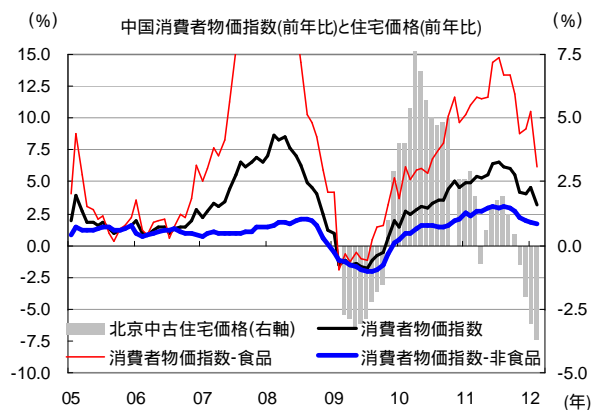
出所: Bloomberg より TDAM 作成



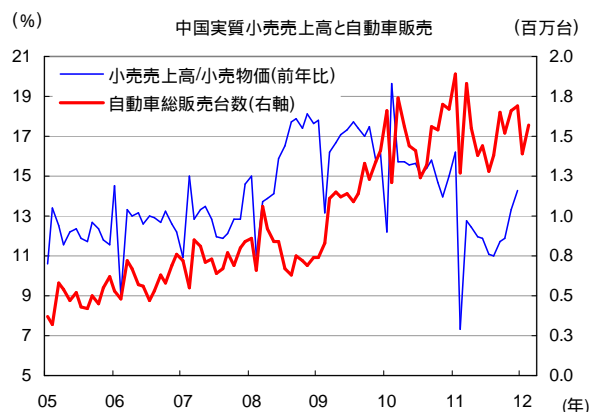
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成

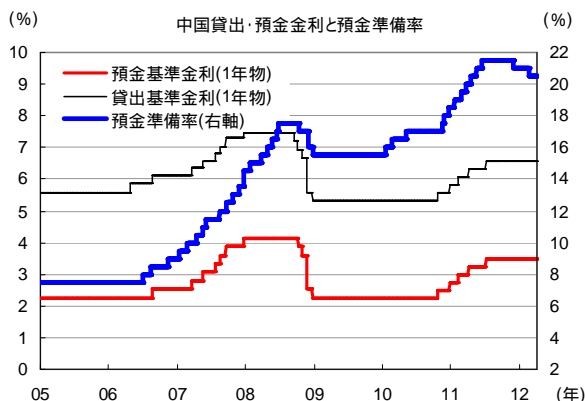


出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成

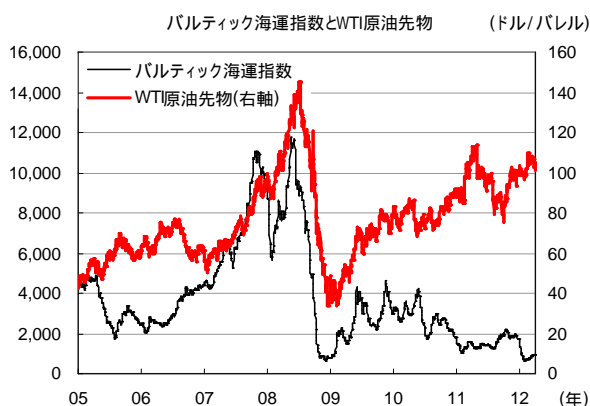
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。



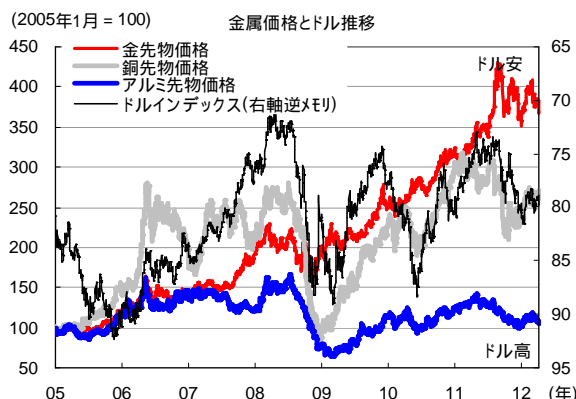
出所: Bloomberg より TDAM 作成



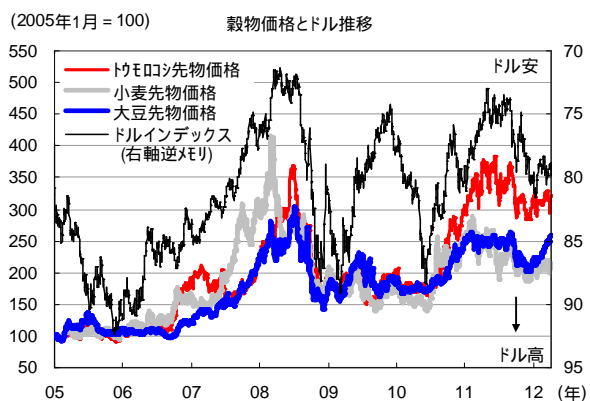
注: NDF(ノン・デリバブルフォワード)とは差金決済の金融派生商品のひとつ。
出所: Bloomberg より TDAM 作成



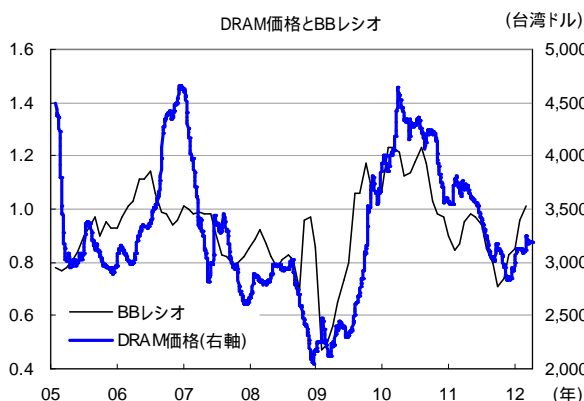
出所: Bloomberg より TDAM 作成



注: ドルインデックスとはドルと主要な国際通貨の為替レートを加重平均して指標化したもの。(比率はユーロ 57.6%、円 13.6%、英ポンド 11.9%、カナダドル 9.1%、スウェーデンクローナ 4.2%、スイスフラン 3.6%。)
出所: Bloomberg より TDAM 作成



注: ドルインデックスとはドルと主要な国際通貨の為替レートを加重平均して指標化したもの。(比率はユーロ 57.6%、円 13.6%、英ポンド 11.9%、カナダドル 9.1%、スウェーデンクローナ 4.2%、スイスフラン 3.6%。)
出所: Bloomberg より TDAM 作成



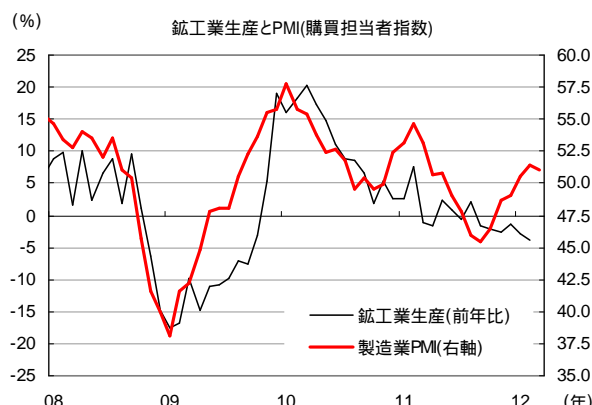
出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

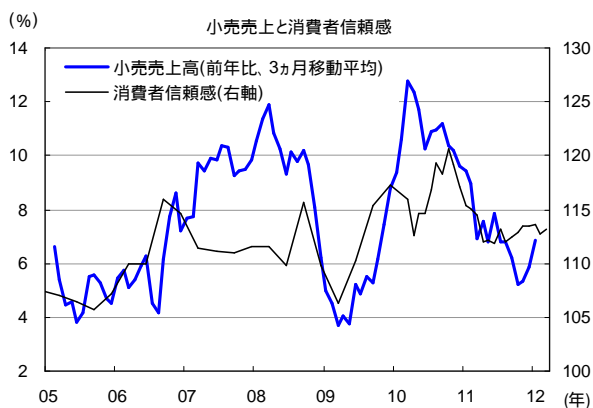
(2) ブラジル経済



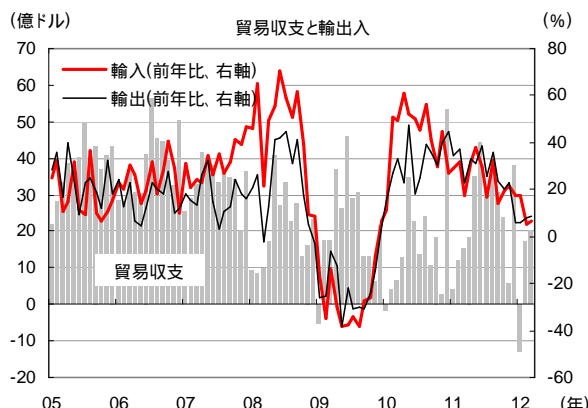
出所: Bloomberg より TDAM 作成



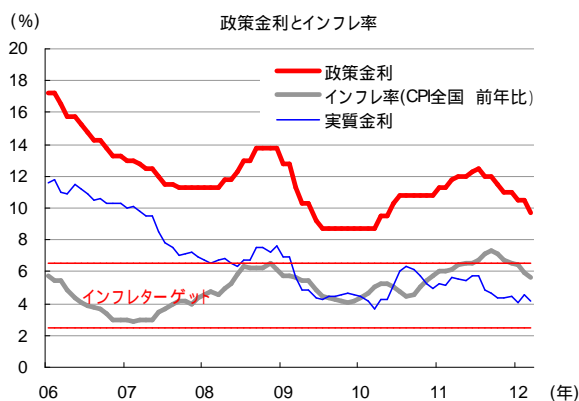
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



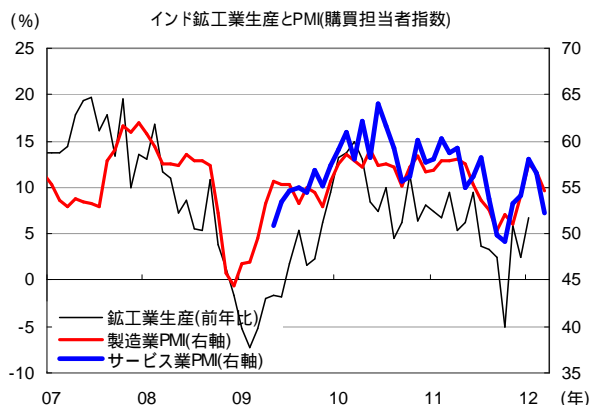
注: 実質金利 = 政策金利 - インフレ率
出所: Bloomberg より TDAM 作成



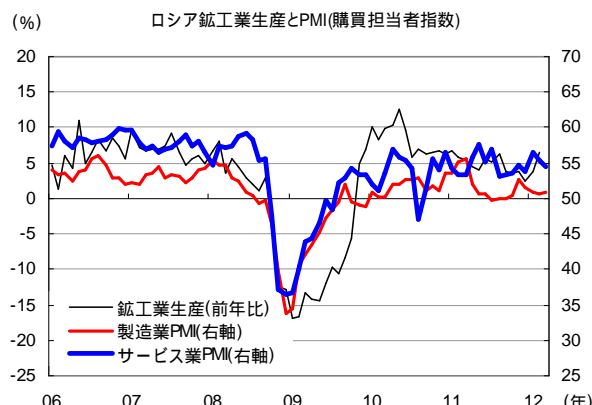
出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

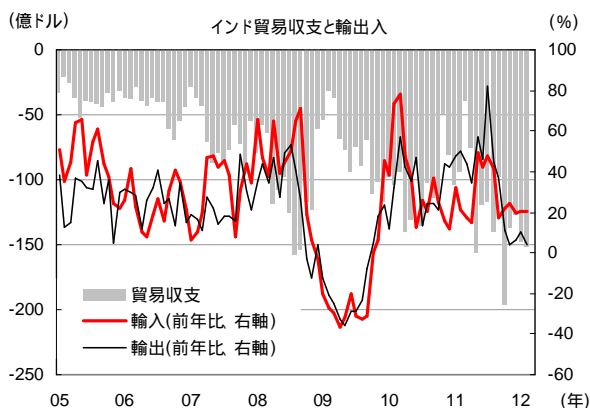
(3) インド経済・ロシア経済



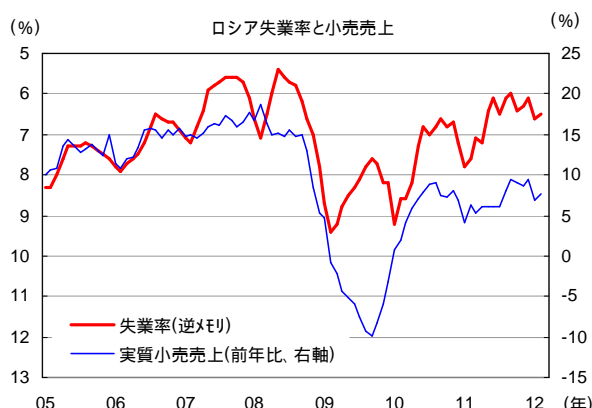
出所: Bloomberg より TDAM 作成



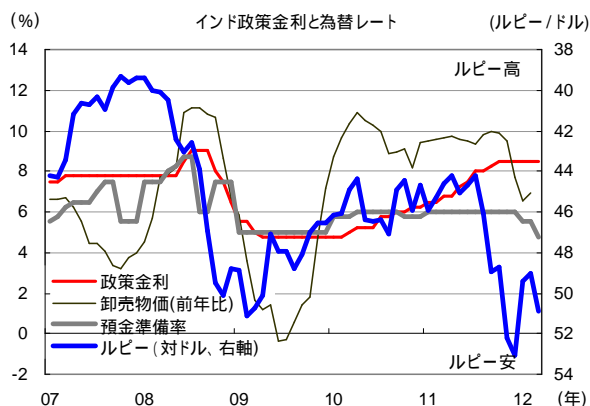
出所: Bloomberg より TDAM 作成



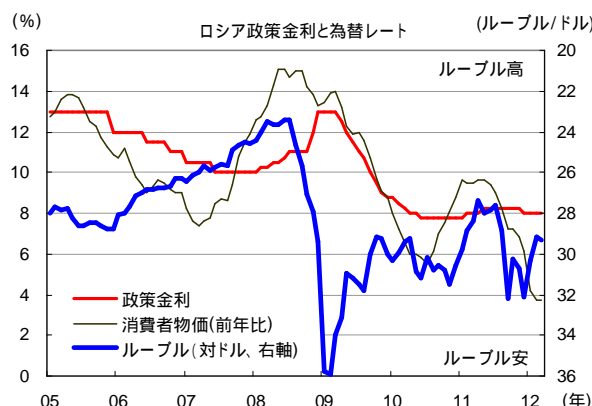
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



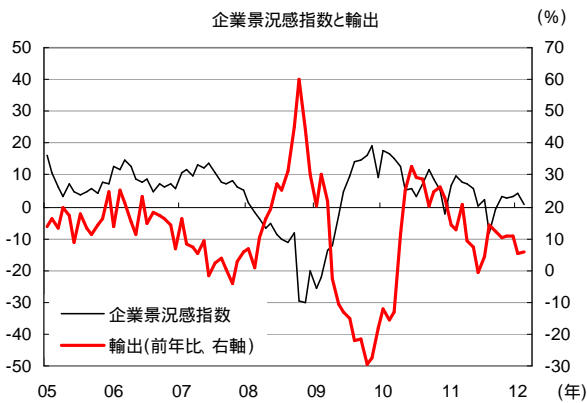
出所: Bloomberg より TDAM 作成



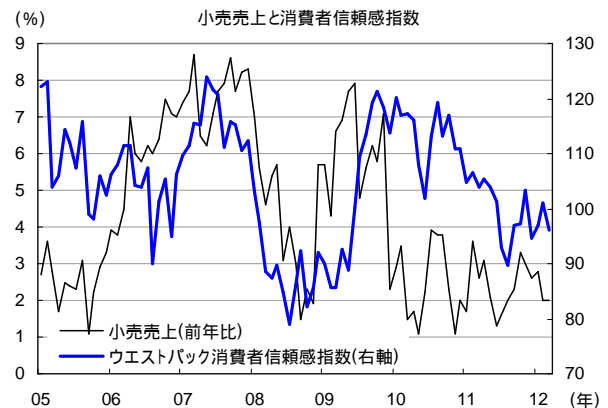
出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

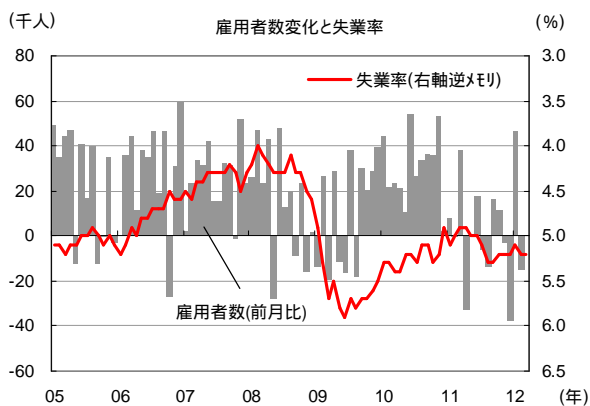
(4) オーストラリア経済



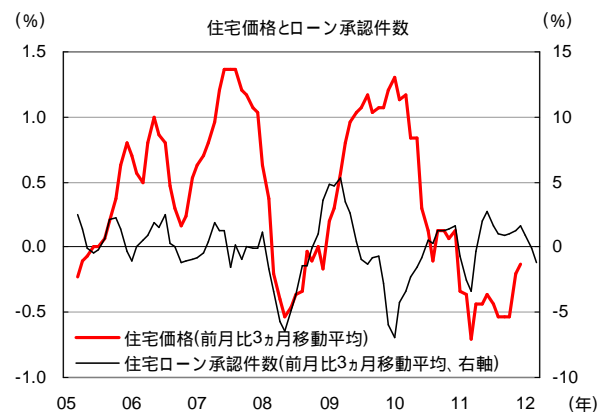
出所: Bloomberg より TDAM 作成



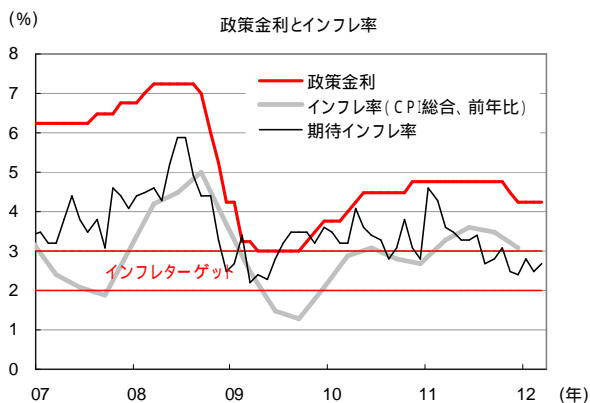
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

市場見通し

1. 債券

1-1. 国内債券

長期金利は、当面レンジでの推移。

金融政策について

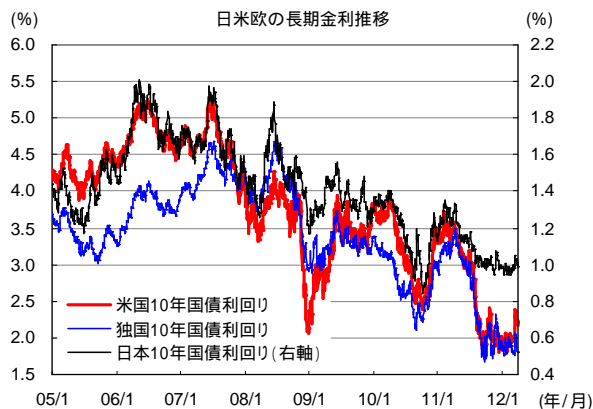
日銀は、3月12～13日に定例会合で、成長基盤強化を支援するための資金供給(10年6月導入)を拡充することを決定し、貸付枠を現行の3.5兆円から5.5兆円に2兆円増額した。

今後、日銀はデフレ脱却に向け実質ゼロ金利政策の長期化を余儀なくされるとともに、先行きも状況に応じて、より長い年限の国債を買入対象に追加するなど金融緩和拡充策を検討する可能性がある。

長期金利

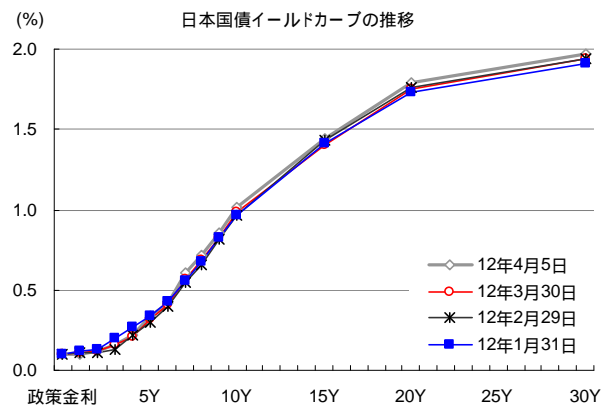
足許、国内景気は依然自律的な回復による預貸ギャップの縮小が見通しにくく、日銀の超金融緩和政策の長期化観測と国債買い取り額の増額、世界的な資金余剰などを背景に、金利への低下圧力がかかるものの、米国中心とする世界経済の緩やかな持ち直しを受けて国内景気の下ブレ懸念も薄らぐことから金利の一段の低下も見込みにくい。このため、国内長期金利は、現行1%を中心としたせまいレンジ内での推移を予想する。

主要国金利は足許下げ止まり



出所: Bloomberg より TDAM 作成

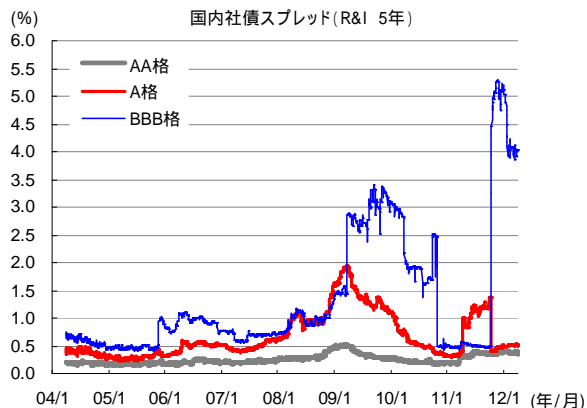
足許、長期中心に上昇



出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

東京電力の格下げに伴い BBB 格スプレッドが足許急拡大



出所: Bloomberg より TDAM 作成

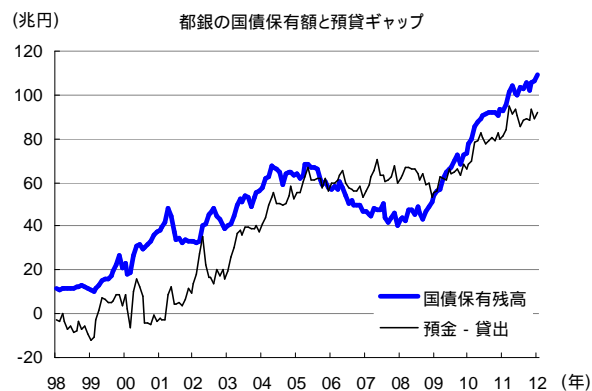
市場は政策金利(0~0.1%)の長期据え置きを予想



注: OIS(オーバーナイトインデックススワップ)の略。市場参加者の政策金利予想を反映している。

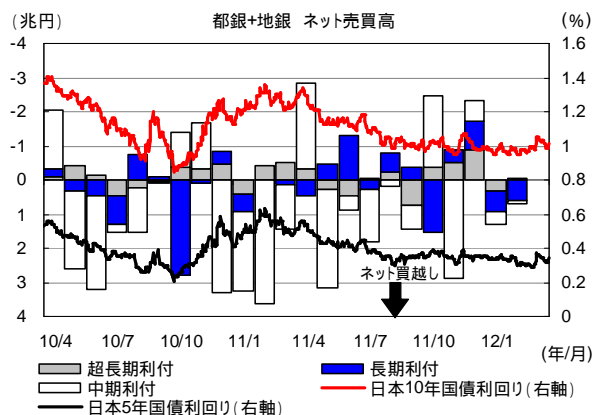
出所: Bloomberg より TDAM 作成

預貸ギャップの拡大にともない都銀の国債保有残高は増加傾向



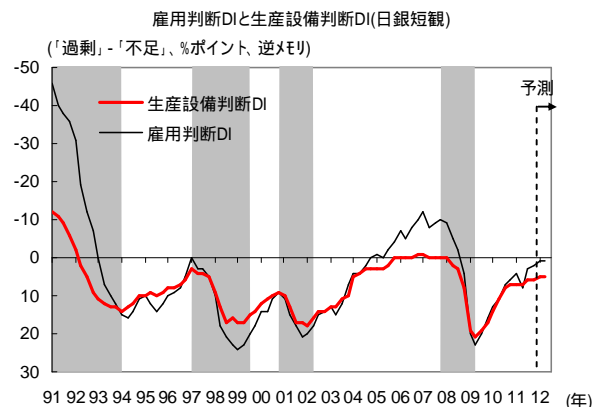
出所: 日本銀行より TDAM 作成

銀行勢は1月、2月は買越し



出所: 日本証券業協会、Bloomberg より TDAM 作成

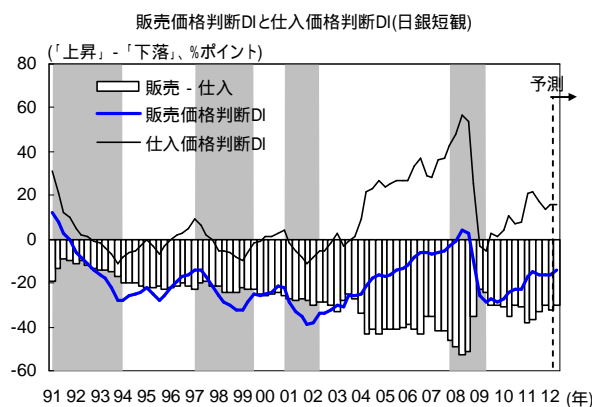
雇用や設備の過剰感は緩やかながら改善継続



注: グレー部分は景気後退期をあらわす。

出所: 日本銀行、Bloomberg より TDAM 作成

仕入価格の低下で交易条件はやや改善



注: グレー部分は景気後退期をあらわす。

出所: 日本銀行、Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

1-2. 米国債券

長期金利はレンジでの推移。

金融政策について

FEDは3月13日に開催されたFOMC(連邦公開市場委員会)で、FedはFFレートの誘導目標を0.00~0.25%に据え置くことを決定した。また、金融政策の先行きについては、「異例に低い水準のFFレートは少なくとも2014年終盤まで正当化されるだろう」と指摘し、引き続き非常に緩和的な金融政策スタンスを維持する方針を示した。量的緩和に関しても、「9月に発表した保有証券の平均残存期間を延長するプログラムを続ける」ことを決定し、「政府機関債と住宅ローン担保証券の償還元本を住宅ローン担保証券に再投資し、償還を迎えた国債を再投資する」現行方針を維持した。

4月3日に公表されたFOMC議事録には、FRB当局者の中で、追加緩和の実施に向けた機運が低下していることが示された。バーナンキFRB議長が前週、失業率低下には経済成長の加速が必要との考えを示したことで、市場ではバーナンキ議長がQE3の実施に傾いているとの見方が広がっていたこともあり、議事録の内容はややサプライズと受け取られた。

長期金利

米国経済は、製造業の景況感や消費マインドの持ち直しなどから景気の自律的な回復への期待が高まりつつあるものの、ガソリン価格の高騰などから依然として雇用の加速も見込みにくく、インフレ期待も今後はやや落ち着きを見せられることから、当面2%台前半を中心としたレンジ内での推移を予想する。

また、足許、欧州債務問題による資本の逃避で米国金利の上昇がやや抑えられている感があるが、依然、欧州債務問題の動向は不透明で今後も米国金利の上昇を抑制する可能性が高いものと思われる。

1-3. ユーロ圏債券

ドイツの長期金利はレンジでの推移。

金融政策について

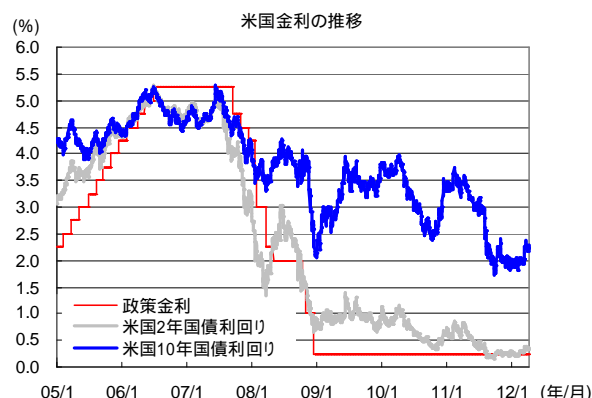
欧州中央銀行(ECB)は、4月4日の理事会で、大方の予想通り政策金利(リファイナンス金利1.0%等)を据え置いた。ドラギ総裁の会見は、追加利下げの可能性が低い点をさらに強く示唆する内容である反面、近い将来の金融引き締めや緊急流動性対策(非標準的手段)解除を否定するものでもあった。また、今回の決定は全会一致で、利上げや利下げの議論はなかったとのことで、当面はどちらにも動き難いということ、2度の利下げ効果や、2回の3年物長期オペが今後の金融システムや国債市場の安定化に及ぼす効果を見極めることを優先することが予想される。

長期金利

ユーロ圏各国の長期金利は、景気動向のみならず債務問題の動向にも大きく左右される可能性が高く、変動の激しい展開が予想される。

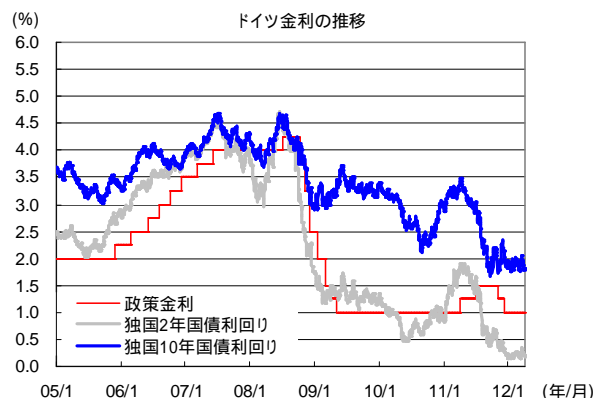
ドイツの長期金利の水準は、ドイツ国内の経済成長率や物価から見てすでに低下余地は限られると思われる一方、今後も域内においては財政緊縮による景気下押し圧力が継続する中、ギリシャ債務問題などの問題がくすぶり続ける可能性が高いと思われることから、当面は現行の1.8%程度を中心とするレンジ内での推移を予想する。

(米国) 足許下げ止まり、10年債は2%台前半での推移



出所: Bloomberg より TDAM 作成

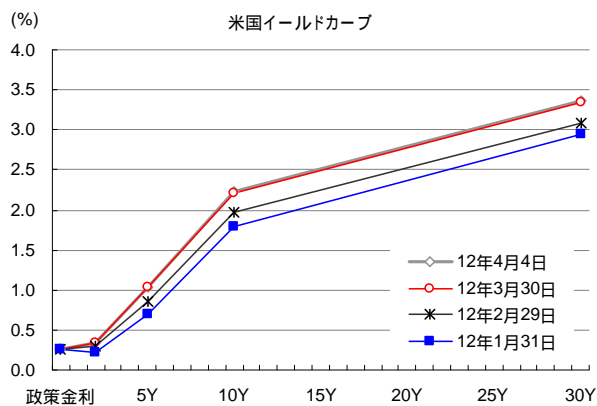
(ドイツ) 過去最低水準で推移



出所: Bloomberg より TDAM 作成

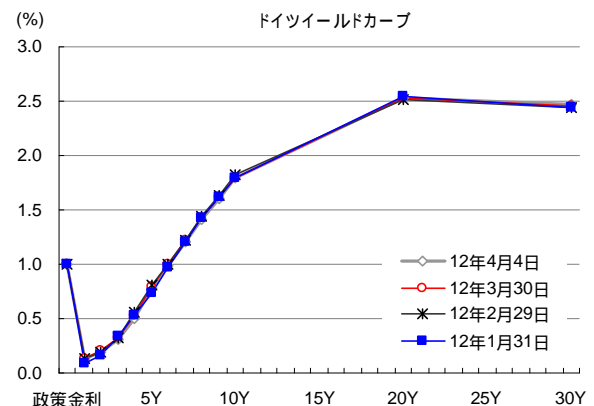
【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

(米国) イールドカーブはベアスティーブ化



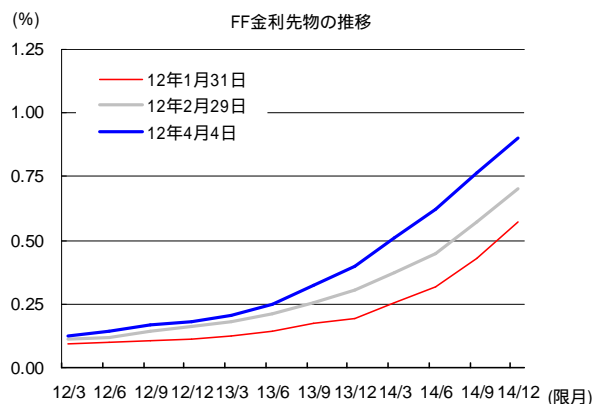
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(ドイツ) イールドカーブには大きな変化なし



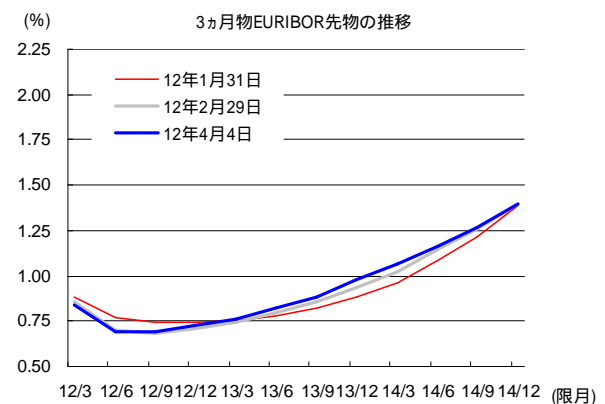
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国) 少なくとも 2014 年終盤まで超低金利政策は継続される見込み



出所: Bloomberg より TDAM 作成

(ユーロ圏) 市場は 12 年央での 25bp の追加利下げを織り込む



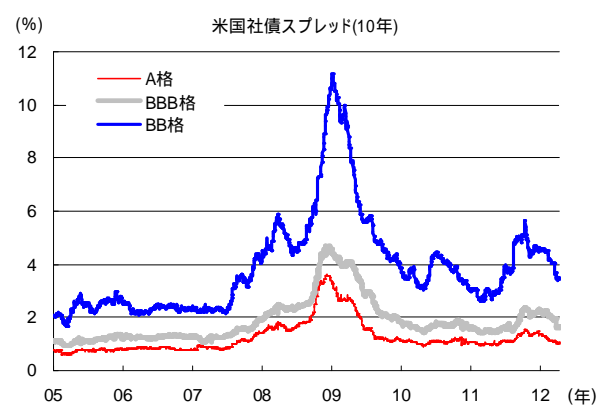
注: EONIA はユーロ圏無担保翌日物平均金利でユーロ圏の短期指標金利。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国) 期待インフレ率(BEI)は上昇も、長期金利は安定推移



出所: Bloomberg より TDAM 作成

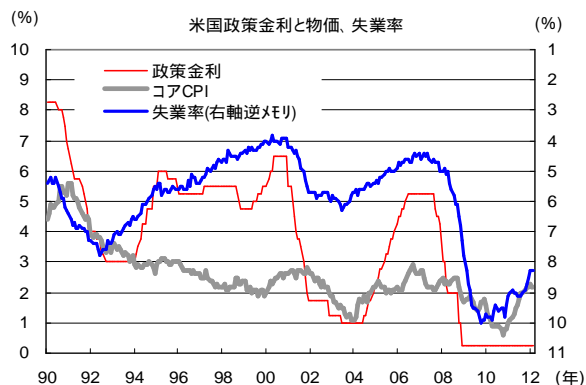
(米国) 社債スプレッドは足許低下基調で推移



出所: Bloomberg より TDAM 作成

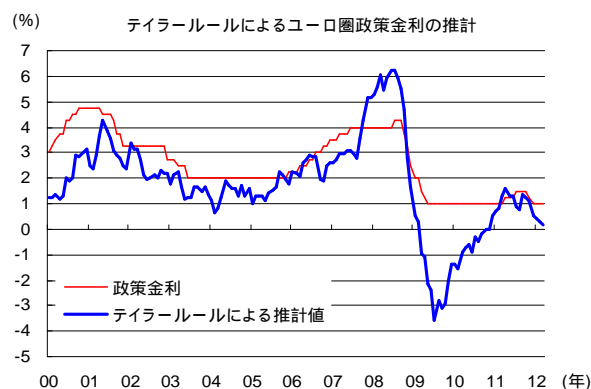
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

(米国) 失業率は改善も依然高水準



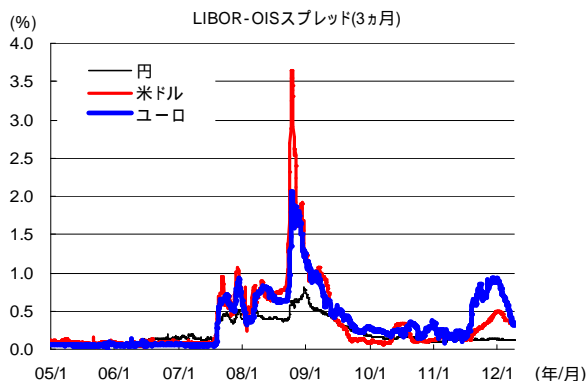
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(ユーロ圏) CPI の低下を受けてテイラールールは利下げを示唆



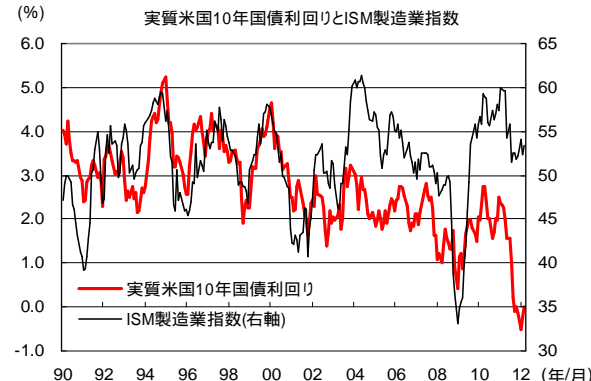
注: 推計値=均衡実質短期金利+インフレ率+ (インフレ率-目標インフレ率)+(NAIRU-失業率)
 均衡実質短期金利=2%、インフレ率=ユーロ圏 HICP、目標インフレ率=2%、NAIRU=7%、失業率=ユーロ圏失業率を用いて推計
 出所: Bloomberg より TDAM 作成

ECB による流動性供給により、金融機関の調達コストは低下



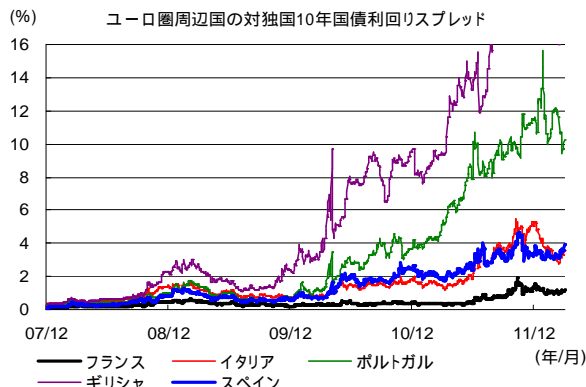
注: LIBOR(ロンドン銀行間取引金利)OIS(オーバーナイトインデックススワップの略。市場参加者の政策金利予想を反映している。)
 出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国) 実質金利は足許でゼロ近傍



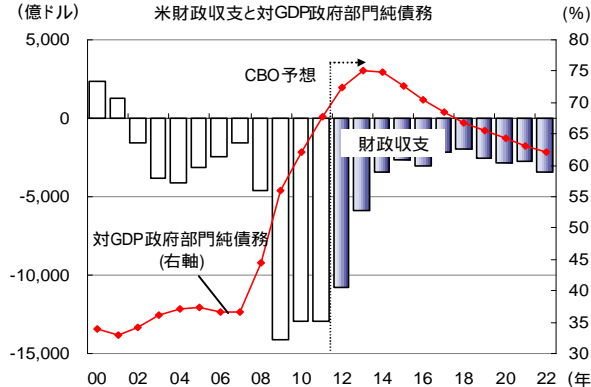
注: 実質米国10年国債利回りは、コアCPIで実質化。
 出所: Bloomberg より TDAM 作成

(ユーロ圏) イタリア、スペインの対独スプレッドは再度拡大の兆し



出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国) 2012年の財政赤字見直し上方修正で、4年連続1兆ドル越え



注: 2011年度以降はCBO(議会予算局)の予想
 出所: Bloomberg, CBO資料より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

2. 株式

2-1. 国内株式

世界景気回復期待で緩やかな上昇も、今後は上値の重い展開。

〔需給動向〕

国内株価の方向性に強い影響力を持つ外国人投資家は、欧米の債務問題への懸念が高まった8月以降売り越しに転じ、8～12月の累計で2兆円超を売り越した。しかし、世界的に景気の持ち直し期待が高まるなかで、1月以降買い越しに転じ、年初から足許までの累計で1兆円を超えて買い越している。

3月(第1～4週累計)単月でも、外人投資家は+2,426億円と買い越しとなったほか、個人がわずかながら買い越しに転じた(+201億円)。売り越し主体では、信託銀行が高水準の売り越しを続けた(-5,530億円)。

〔バリュエーション〕

東証一部市場全体のPBRは、1.08倍、配当利回りと10年国債利回り差も1.1%程度と、足許の株価上昇により割安感はやや薄れたものの、過去比較では依然として低位にある。また、予想PERは、11年度予想ベース(アナリストコンセンサス)では21.0倍、12ヵ月先予想ベースでは14.1倍程度と、今期業績下方修正と株価上昇により、割安感は薄れつつある。(数値は3月30日現在)

〔業績動向〕

11年度の会社予想経常利益は、3Q決算を受けて20%程度の減益、税引き利益でも25%程度の減益まで下方修正された。コンセンサス予想についても同様に大幅に下方修正が進んだ。一方、12年度のコンセンサス予想は経常利益で30%弱、当期利益では70%程度の大幅増益が見込まれている。生産前年比+10%程度の前提を置けば30%増益の達成は可能とみられる。

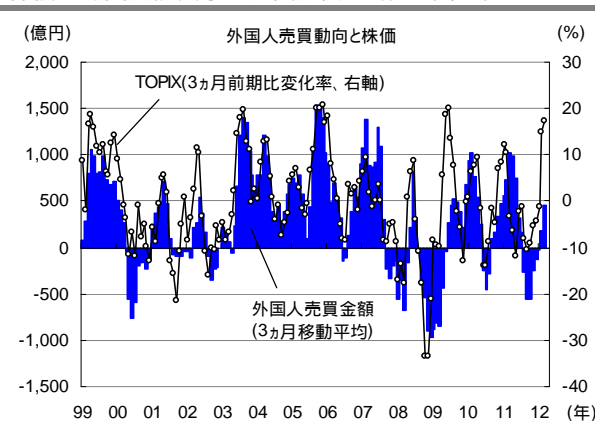
11年度の予想EPSについては、アナリストコンセンサスは41円まで下方修正された。一方、12年度のアナリストコンセンサス予想EPSは、58円程度と大幅な改善が見込まれている。

〔株価見通し〕

米国経済中心に世界景況感が改善する中、新興国中心に、資源価格の上昇一服に伴う期待インフレの緩やかな低下もあり、金融政策にも緩和余地が生まれつつあることから、一定の景気下支え効果が期待される。このため、緩やかな上昇を予想する。

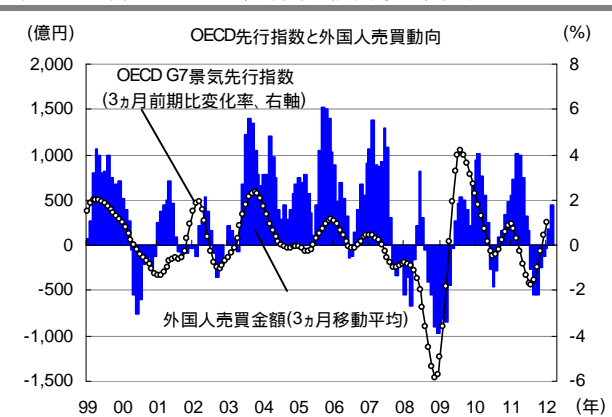
ただし、バリュエーション上割安感が薄れてきていることに加え、欧州債務リスクの継続に加え、ガソリン価格の上昇による米国消費への影響が懸念されるなか、これまで改善傾向にあったユーロ圏や新興国の景況感にも頭打ちの兆しが見られ始めており、上値は限定的と予想する。

株価は外国人投資家の売買動向と密接な関連性



出所: 東京証券取引所、Bloomberg より TDAM 作成

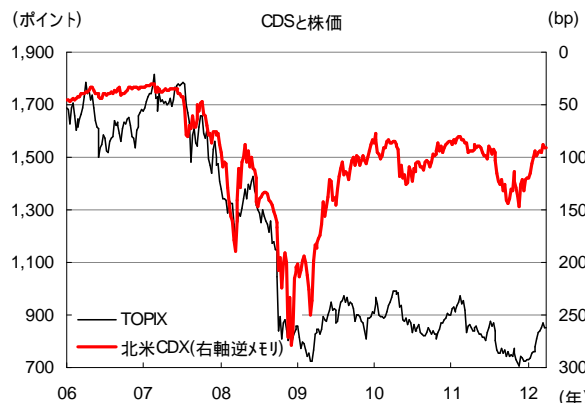
景況感が持ち直すなか、外国人投資家は買い越し



出所: 東京証券取引所、Bloomberg より TDAM 作成

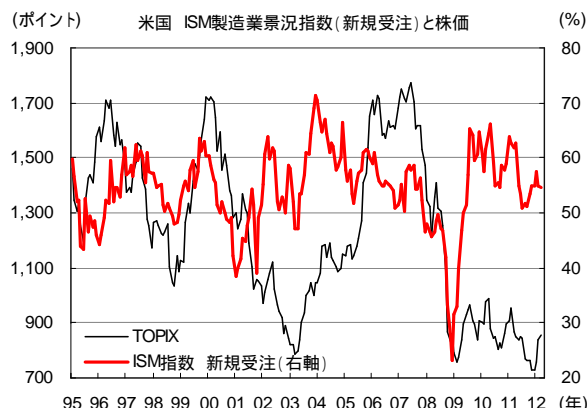
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

拡大していた CDS スプレッドは足許低下基調



注: CDX 指数とは、企業の信用リスクを取引するクレジット・デフォルト・スワップ (CDS) 市場において、北米の投資適格企業 125 社によって構成されている指数。
出所: 東京証券取引所、Bloomberg より TDAM 作成

株価と相関の高い米国 ISM (新規受注) は改善傾向



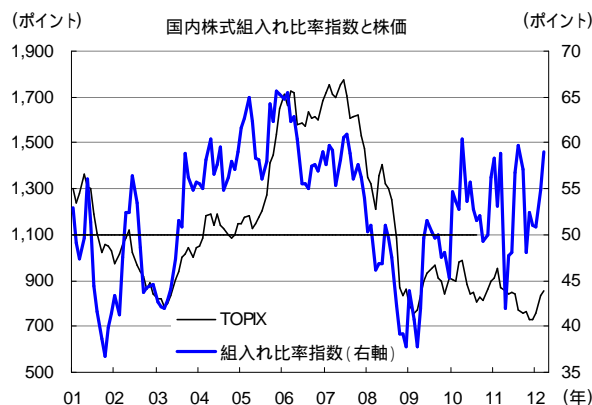
出所: Bloomberg より TDAM 作成

欧州の債務問題などで悪化した投資家心理は改善傾向



注: VIX 指数とは、CBOE(シカゴ・オプション取引所)が公表する指標で、ボラティリティインデックスの略称。投資家心理を示す指標として利用され、上昇すれば投資家心理が悪化したことを示す。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

機関投資家の国内株式組入れ比率は、足許大きく上昇



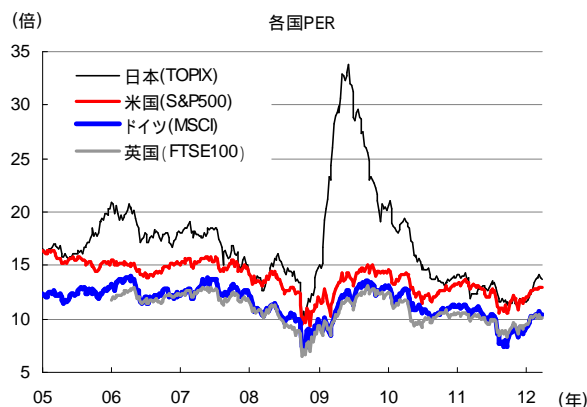
注: 組入れ比率指数は、Quick が機関投資家に対して行ったアンケートをもとに現在の国内株式組入れ比率を指数化したもの。50 が中立を示す。
出所: Quick(QSS レポート)より TDAM 作成

日本の相対株価はやや上昇も依然として低水準



注: 2007 年 12 月末を 100 として指数化した。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

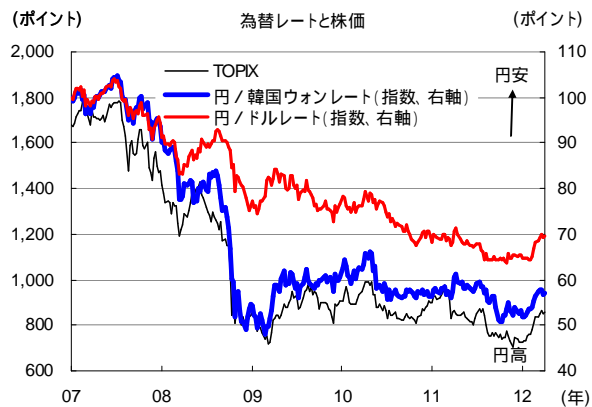
各国とも PER は上昇傾向



注: 各国 PER は、12 カ月先予想ベース。
出所: 東京証券取引所、ドイツ証券取引所、スタンダード & プアーズ、FACTSET、Bloomberg より TDAM 作成

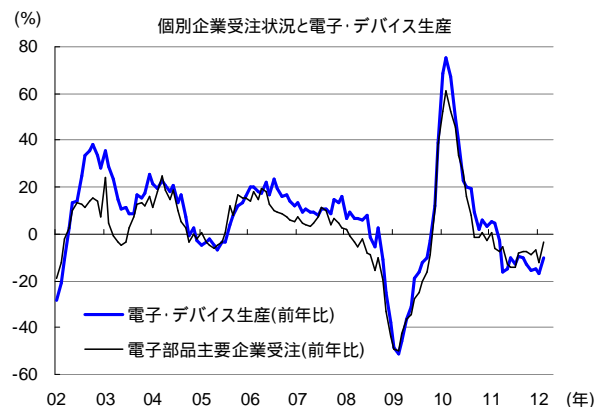
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

ドル、ウォンレートと株価の間には高い相関



注: 為替レートは 2006 年末を 100 として指数化。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

電子デバイスの受注、生産(前年比)は下げ止まり



出所: 経済産業省、三菱 UFJ 証券レポートからの抜粋により TDAM 作成

2011 年度は 2 桁減益も、2012 年度は 2 割以上の増益を予想

【2011年度経常増益率(TDAM試算)】

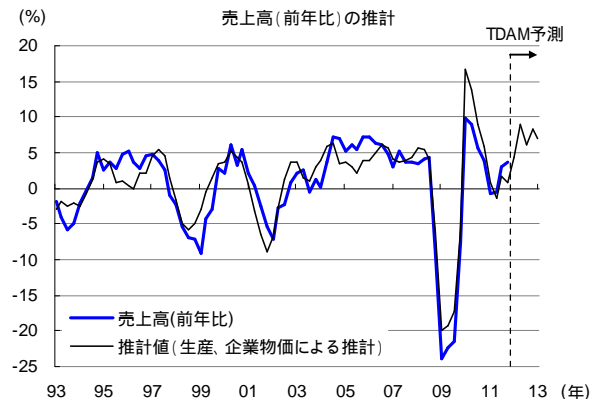
| 鉱工業生産 (前年比) | 売上高伸び率 (推計) | 固定費 +1.0% 限界利益率 0.5% | 固定費 +1.0% 限界利益率 1.0% |
|----------------|----------------|-------------------------|-------------------------|
| +5.0% | +5.3% | +5.7% | ▲5.1% |
| +0.0% | +2.3% | ▲5.0% | ▲15.5% |
| ▲2.5% | +0.7% | ▲10.4% | ▲20.7% |
| ▲5.0% | ▲0.8% | ▲15.8% | ▲25.9% |
| ▲10.0% | ▲3.8% | ▲26.5% | ▲36.3% |

【2012年度経常増益率(TDAM試算)】

| 鉱工業生産 (前年比) | 売上高伸び率 (推計) | 固定費 +1.0% 限界利益率 +0.5% | 固定費 +1.0% 限界利益率 ±0% |
|----------------|----------------|--------------------------|------------------------|
| +15.0% | +10.5% | +51.1% | +38.4% |
| +12.5% | +9.0% | +44.9% | +32.3% |
| +10.0% | +7.5% | +38.7% | +26.3% |
| +7.5% | +5.9% | +32.5% | +20.3% |
| +5.0% | +4.4% | +26.3% | +14.3% |

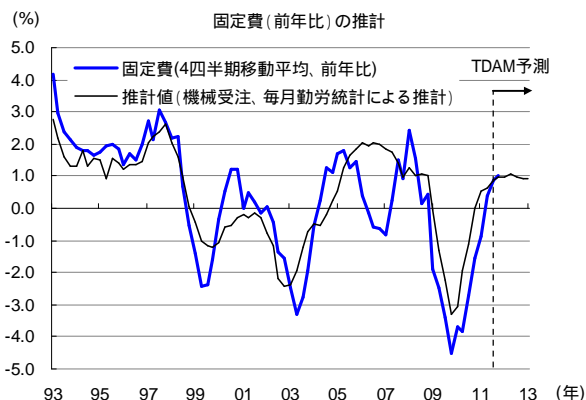
出所: Bloomberg、TDAM 予測

売上高は供給制約等の解消から改善見込み



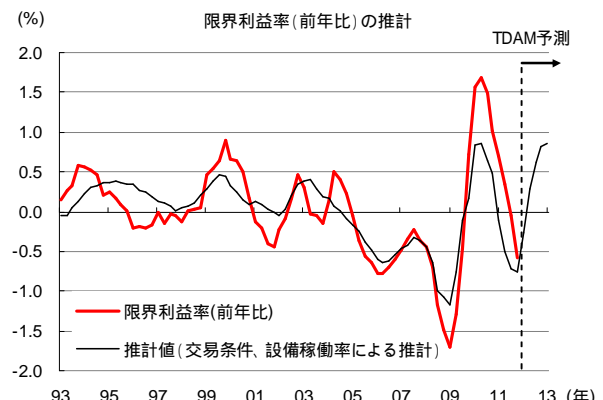
出所: 財務省、経済産業省、日本銀行、TDAM 予測

固定費は微増傾向が続く見込み



出所: 内閣府、厚生労働省、TDAM 予測

限界利益率は稼働率の改善などから回復見込み



出所: 日本銀行、経済産業省、TDAM 予測

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

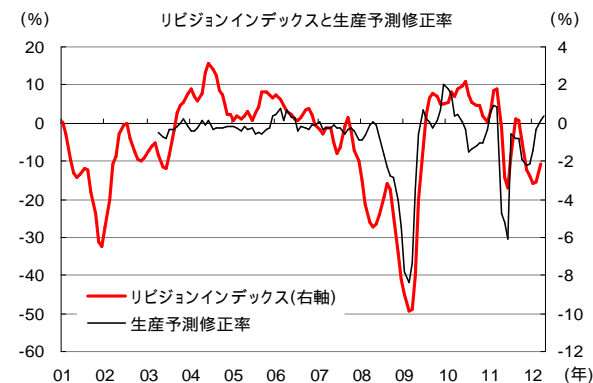
会社、アナリストともに 2011 年度の企業収益は 2 桁減益を予想

単位: 10億円

| | 2011年度(予想) | | | | 2012年度(予想) | |
|------|------------|--------|-------------|--------|-------------|--------|
| | 会社予想 | | アナリストコンセンサス | | アナリストコンセンサス | |
| | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 |
| 売上高 | 571,680 | +1.4% | 571,546 | +1.4% | 593,297 | +3.8% |
| 営業利益 | 25,540 | ▲16.4% | 26,223 | ▲14.2% | 32,181 | +22.7% |
| 経常利益 | 23,906 | ▲19.5% | 24,630 | ▲17.1% | 31,784 | +29.0% |
| 税引利益 | 10,039 | ▲25.5% | 10,766 | ▲20.1% | 18,445 | +71.3% |

注: 東証一部に上場する 12 月、1 月、2 月、3 月決算の企業(金融除く)を集計した。
出所: Quick より TDAM 作成

業績リビジョンは悪化続くも、生産予測修正率は足許でやや改善



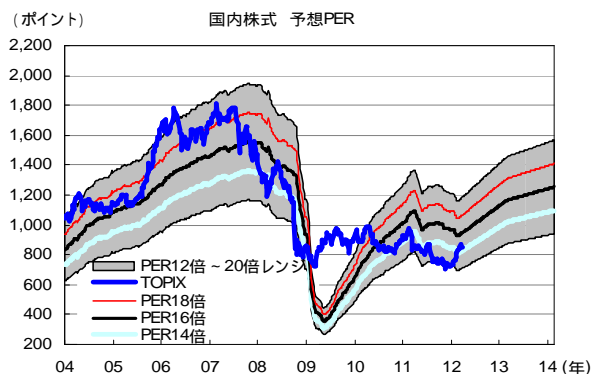
出所: 経済産業省、FACTSET より TDAM 作成

ユーロ圏債務問題への懸念後退などからリスクプレミアムは低下



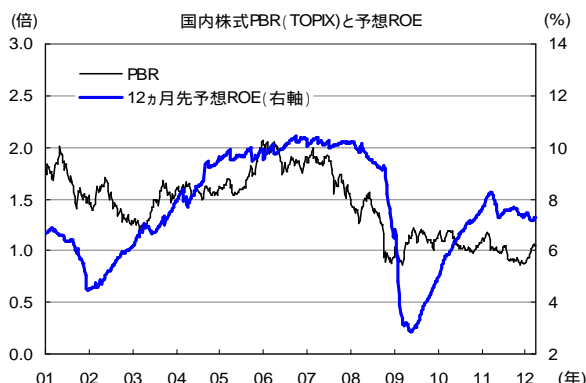
出所: Bloomberg、FACTSET より TDAM 作成

予想 PER は小幅上昇も依然として過去レンジで下方で推移



注: 12 ヵ月先予想ベース。
出所: FACTSET より TDAM 作成

PBR は 1 倍水準を回復



出所: Bloomberg、FACTSET より TDAM 作成

足許のTOPIXはリスクプレミアム 6%、予想 ROE7%程度の水準

予想ROEとリスクプレミアムによるPBR、株価マトリクス

【予想ROE、リスクプレミアムの水準から推計されるPBR水準】

| | | 予想ROE | | | | | |
|----------------------|----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | | 4% (32.6) | 5% (40.7) | 6% (48.8) | 7% (57.0) | 8% (65.1) | 9% (73.2) |
| リスク プレ ミア ム | 3% | 1.00 | 1.25 | 1.50 | 1.75 | 2.00 | 2.25 |
| | 4% | 0.80 | 1.00 | 1.20 | 1.40 | 1.60 | 1.80 |
| | 5% | 0.67 | 0.83 | 1.00 | 1.17 | 1.33 | 1.50 |
| | 6% | 0.57 | 0.71 | 0.86 | 1.00 | 1.14 | 1.28 |
| | 7% | 0.50 | 0.62 | 0.75 | 0.87 | 1.00 | 1.12 |
| | 8% | 0.44 | 0.56 | 0.67 | 0.78 | 0.89 | 1.00 |

【予想ROE、リスクプレミアムの水準から推計されるTOPIX】

| | | 予想ROE | | | | | |
|----------------------|----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | | 4% (32.6) | 5% (40.7) | 6% (48.8) | 7% (57.0) | 8% (65.1) | 9% (73.2) |
| リスク プレ ミア ム | 3% | 813 | 1,016 | 1,219 | 1,422 | 1,626 | 1,829 |
| | 4% | 650 | 813 | 976 | 1,138 | 1,301 | 1,463 |
| | 5% | 542 | 678 | 813 | 949 | 1,084 | 1,220 |
| | 6% | 465 | 581 | 697 | 813 | 929 | 1,046 |
| | 7% | 407 | 508 | 610 | 712 | 813 | 915 |
| | 8% | 361 | 452 | 542 | 633 | 723 | 813 |

注: 括弧は、BPS800 円の場合の EPS 水準
出所: TDAM 予測

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

2-2. 外国株式

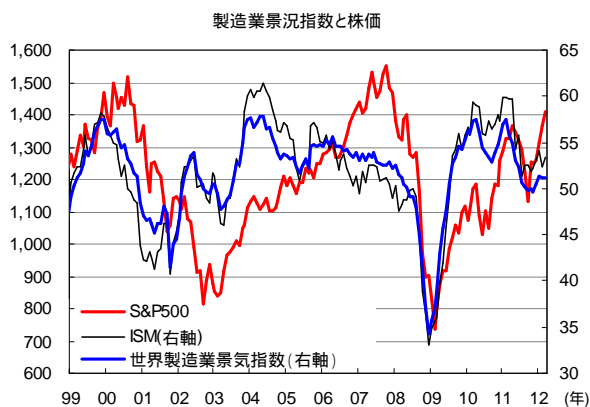
景気回復期待で緩やかに上昇するものの、徐々に上値は重い展開。

(米国株式)

S & P500対象企業の2012年1Q以降の増益率は緩やかな下方修正傾向が続き、2012年1Qの増益率は+0.2%と前年並みに低下する見込みである。しかし、増益率に先行する傾向がある企業収益の修正状況を示す企業収益楽観指数については底打ちの兆しがみえており、企業収益の下方修正傾向も3月に入り下げ止まり、足許、上方修正傾向に転じつつある。バリュエーションは、12ヵ月先予想EPS(108.5ドル)ベースのPERは13.0倍と一時の過度の割安感は後退した。

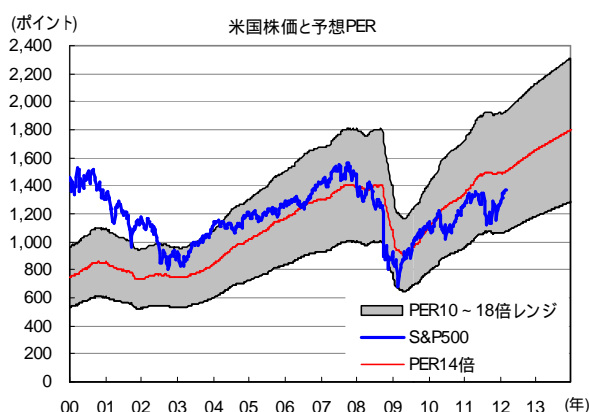
米国中心に世界景況感が改善する中、企業収益も過去最高水準を更新し、バリュエーション上も依然割安感があることから緩やかな上昇を予想する。ただし、欧州債務リスクの継続に加え、ガソリン価格の上昇による米国消費への影響が懸念されるなか、これまで改善傾向にあったユーロ圏や新興国の景況感にも頭打ちの兆しが見られ始めており、徐々に上値は重くなるものと予想する。

株価との連動性の高い製造業景況感は横ばい推移



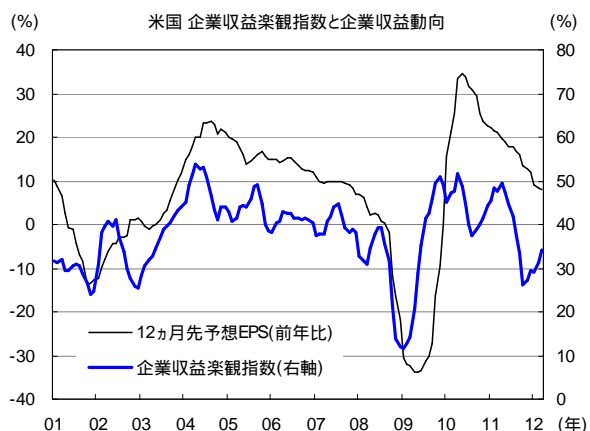
出所: Bloomberg より TDAM 作成

株価上昇で過度の割安感は解消



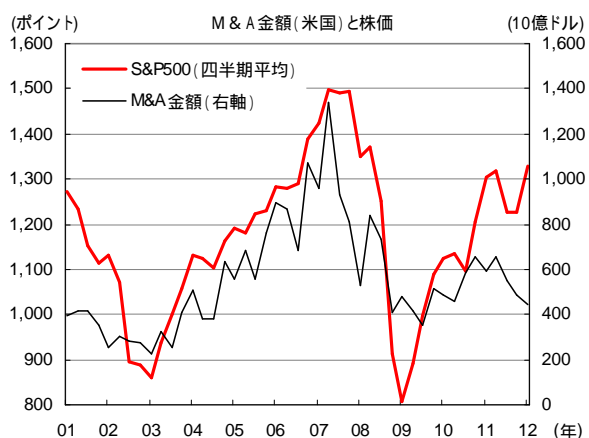
出所: Bloomberg, FACTSET より TDAM 作成

企業収益見通しに先行する楽観指数は底打ち



注:企業収益楽観指数は、上方修正企業÷全体の企業数で算出。12ヵ月先予想EPSはS&P500のデータを使用。
出所:FACTSET より TDAM 作成

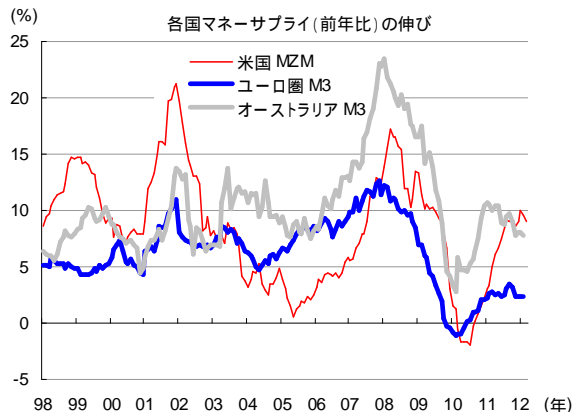
株価と連動性のあるM&Aは減速



注:直近のデータは、実績値を四半期換算して算出
出所: Bloomberg より TDAM 作成

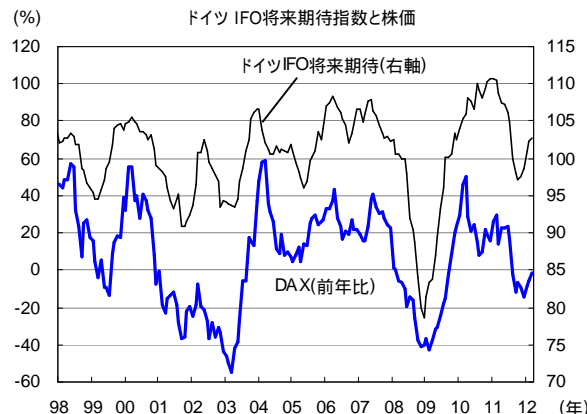
【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

世界的にマネーサプライ伸び率はやや頭打ち



注: M2M(Money of zero maturity)とは、米国の通貨供給量の指標。米国は通常指標として使用しているM3を公表していないので、セントルイス連銀が発表しているこの指標を使用する。
出所: BloombergよりTDAM作成

株価との連動性が高いドイツの景況感は底打ち



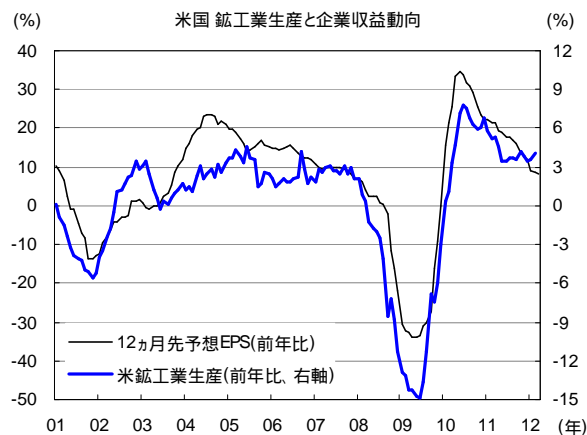
出所: BloombergよりTDAM作成

ドル安傾向の一服もあり、企業収益の伸びは鈍化



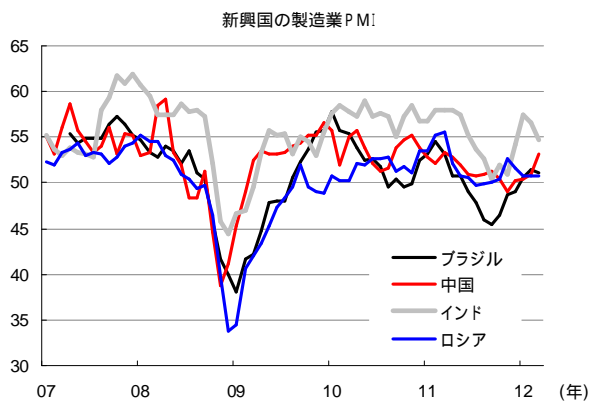
注: 12ヵ月予想EPSは、S&P500のデータを使用。
出所: Bloomberg, FACTSETよりTDAM作成

企業収益と連動性高い生産は、前年比3%台横ばいで推移



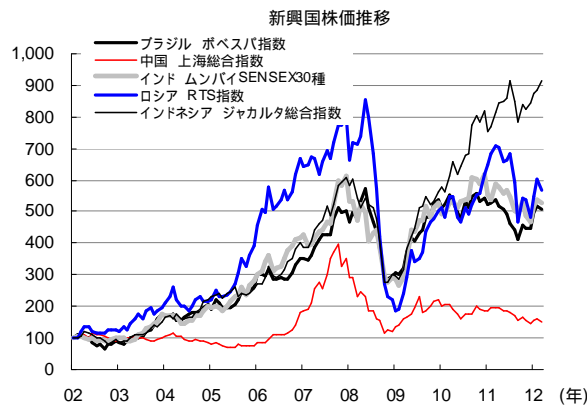
注: 12ヵ月予想EPSは、S&P500のデータを使用。
出所: Bloomberg, FACTSETよりTDAM作成

新興国の製造業景況感はやや頭打ちに



出所: BloombergよりTDAM作成

新興国株式市場もやや上値重い展開



注: 2002年1月31日の株価を100(基準値)として指数化。
出所: BloombergよりTDAM作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

3. 為替

3-1. ドル円

方向感の出にくい展開。

折に触れ欧州債務問題が取りざたされリスク回避的な円高圧力がかけやすい環境下で、米国の低金利政策の長期化観測がドルの上値を抑制する一方、米国経済の緩慢ながらも自律的な回復への期待や日本の通貨当局の円高阻止に向けた姿勢により、ドル・円は狭いレンジでのみ合いが続く見通し。

2月以降のドル円相場は、日銀による予想外の追加金融緩和や日本の貿易収支の赤字転換などを背景に、円安が進行したが、金利差の拡大に見合う水準以上に円安が進行していることや、貿易収支の赤字転換への転換は一時的と思われることから、83円を超える円安水準はやや過大に円安へふれていった可能性もあると思われる。

3-2. ユーロドル

欧州債務問題への懸念と米欧の景況感格差でユーロ安基調での推移。

米国では、景気が自律的な回復の兆しを見せているなか、世界経済の下ぶれリスクが軽減されることに伴い、マーケットにおけるリスク回避的な動きが抑制され、ユーロは対ドルで下支えされる局面も想定されるものの、ユーロ圏債務問題懸念の継続と米欧の景況感格差や金利差の拡大により、基本的にはユーロ安基調での推移が予想される。

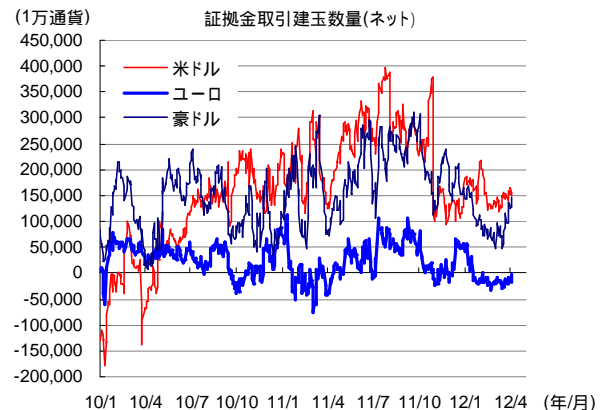
日銀の追加金融緩和を受けてドル円は円安で推移



注: OIS(オーバーナイトインデックススワップ)の略。市場参加者の政策金利予想を反映している。

出所: Bloomberg より TDAM 作成

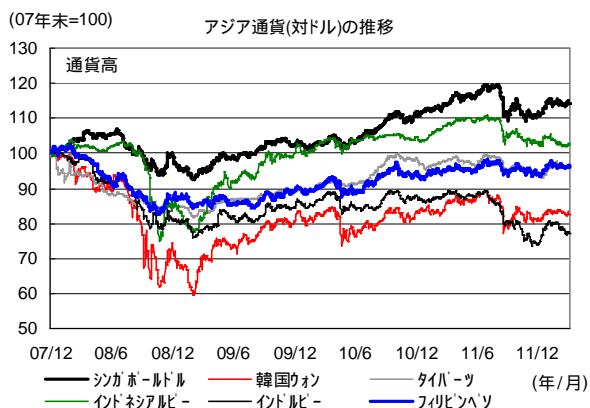
証拠金のロングポジションは 2 月以降の外貨高を受けて逆張りに減少



出所: 東京金融取引所より TDAM 作成

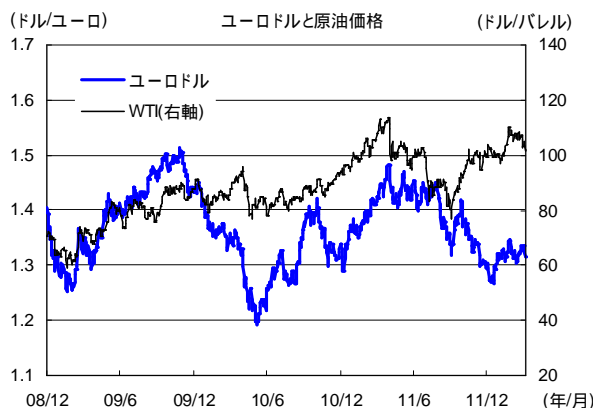
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

アジア通貨のトレンドは対ドルで上昇



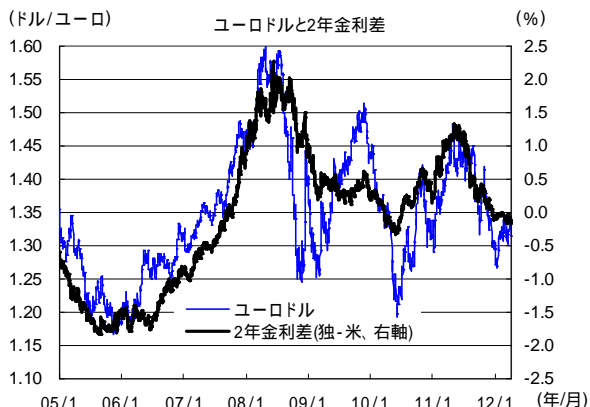
出所: Bloomberg より TDAM 作成

原油、ユーロともに足許で上昇



出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロドルのトレンドは金利差(独-米)縮小によるユーロ安



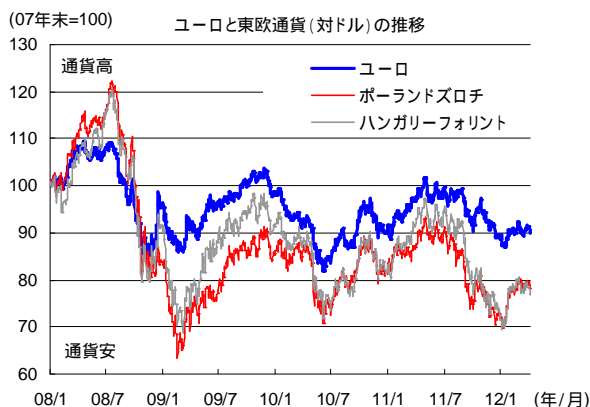
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロ円は、金利差(独-日)縮小一服でユーロ反発



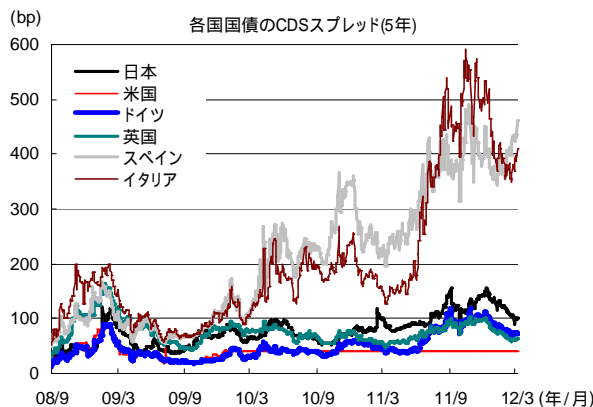
出所: Bloomberg より TDAM 作成

東欧通貨は、ユーロに連れて対ドルで足許上昇



出所: Bloomberg より TDAM 作成

イタリア・スペインのCDSスプレッドは足許再度拡大



出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33のリスクや費用項目を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。

4. 市場見通し(まとめ)

| | | | 実績 | | 予想 | | | | | |
|-----|----------|--------|------------------------|------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | | | 前月作成時 2012年 3月7日 | 今月作成時 2012年 4月5日 | 2012年4月～6月期 | | 2012年7～9月期 | | 2012年10～12月期 | |
| 日本 | コール翌日物 | % | 0.10 | 0.10 | 0.00 ~ 0.10 | 0.00 ~ 0.10 | 0.00 ~ 0.10 | 0.00 ~ 0.10 | 0.00 ~ 0.10 | 0.00 ~ 0.10 |
| | 10年国債利回り | % | 0.98 | 1.00 | 0.80 ~ 1.20 | 0.80 ~ 1.20 | 0.90 ~ 1.30 | 0.90 ~ 1.30 | 0.90 ~ 1.30 | 0.90 ~ 1.30 |
| | TOPIX | ポイント | 823 | 833 | 775 ~ 925 | 775 ~ 925 | 800 ~ 950 | 800 ~ 950 | 825 ~ 975 | 825 ~ 975 |
| | 日経平均 | 円 | 9,576 | 9,768 | 9,000 ~ 10,750 | 9,000 ~ 10,750 | 9,250 ~ 11,000 | 9,250 ~ 11,000 | 9,500 ~ 11,250 | 9,500 ~ 11,250 |
| 米国 | FFレート | % | 0.00 ~ 0.25 | 0.00 ~ 0.25 | 0.00 ~ 0.25 | 0.00 ~ 0.25 | 0.00 ~ 0.25 | 0.00 ~ 0.25 | 0.00 ~ 0.25 | 0.00 ~ 0.25 |
| | 10年国債利回り | % | 1.98 | 2.18 | 1.80 ~ 2.50 | 1.90 ~ 2.60 | 2.00 ~ 2.70 | 2.00 ~ 2.70 | 2.10 ~ 2.80 | 2.10 ~ 2.80 |
| | S&P500 | ポイント | 1,353 | 1,398 | 1,275 ~ 1,475 | 1,300 ~ 1,500 | 1,325 ~ 1,525 | 1,325 ~ 1,525 | 1,350 ~ 1,550 | 1,350 ~ 1,550 |
| | NY ダウ | ドル | 12,837 | 13,060 | 12,500 ~ 14,500 | 12,750 ~ 14,750 | 13,250 ~ 15,250 | 13,250 ~ 15,250 | 13,750 ~ 15,750 | 13,750 ~ 15,750 |
| ドイツ | レボレート | % | 1.00 | 1.00 | 0.75 ~ 1.00 | 0.75 ~ 1.00 | 0.75 ~ 1.00 | 0.75 ~ 1.00 | 0.75 ~ 1.00 | 0.75 ~ 1.00 |
| | 10年国債利回り | % | 1.77 | 1.74 | 1.60 ~ 2.20 | 1.60 ~ 2.20 | 1.70 ~ 2.30 | 1.70 ~ 2.30 | 1.80 ~ 2.40 | 1.80 ~ 2.40 |
| | DAX | ポイント | 6,671 | 6,775 | 6,200 ~ 7,600 | 6,200 ~ 7,600 | 6,400 ~ 7,800 | 6,400 ~ 7,800 | 6,600 ~ 8,000 | 6,600 ~ 8,000 |
| 為替 | ドル円 | 円/ドル | 81.09 | 82.37 | 76 ~ 86 | 78 ~ 88 | 80 ~ 90 | 80 ~ 90 | 82 ~ 92 | 82 ~ 92 |
| | ユーロドル | ドル/ユーロ | 1.315 | 1.307 | 1.22 ~ 1.38 | 1.22 ~ 1.38 | 1.22 ~ 1.38 | 1.22 ~ 1.38 | 1.22 ~ 1.38 | 1.22 ~ 1.38 |
| | ユーロ円 | 円/ユーロ | 106.63 | 107.61 | 97 ~ 116 | 100 ~ 118 | 101 ~ 121 | 101 ~ 121 | 104 ~ 123 | 104 ~ 123 |

出所: 東京証券取引所、日本経済新聞社および日本経済新聞デジタルメディア、スタンダード&プアーズより TDAM 作成。TDAM 予想。

(日本 長期金利)



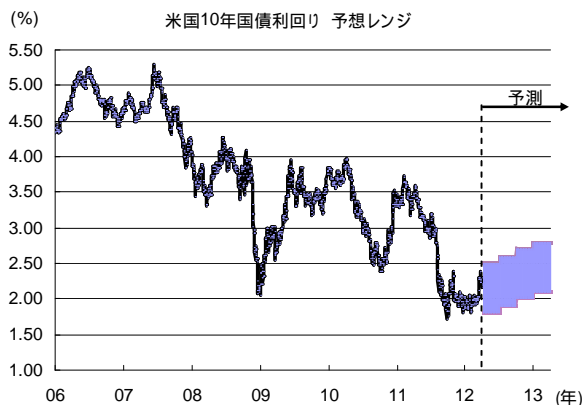
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(日本 株価)



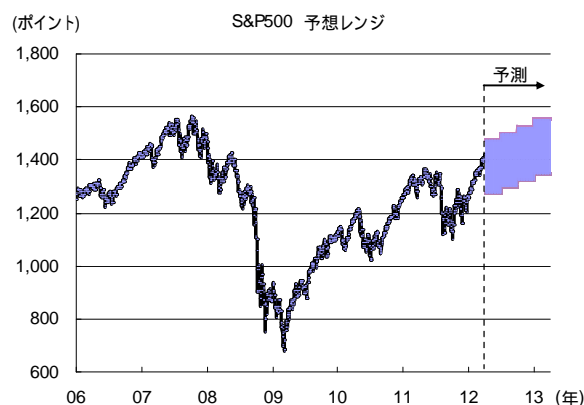
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国 長期金利)



出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国 株価)



出所: Bloomberg より TDAM 作成

*「市場見通し(まとめ)」は、本資料作成時における見解であり、将来を示唆、保証するものではありません。

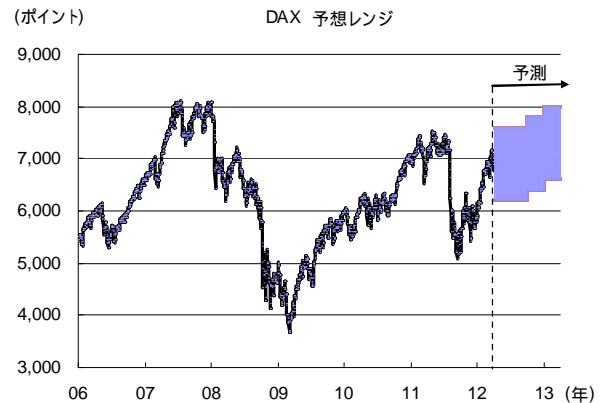
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

〔ドイツ 長期金利〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔ドイツ 株価〕



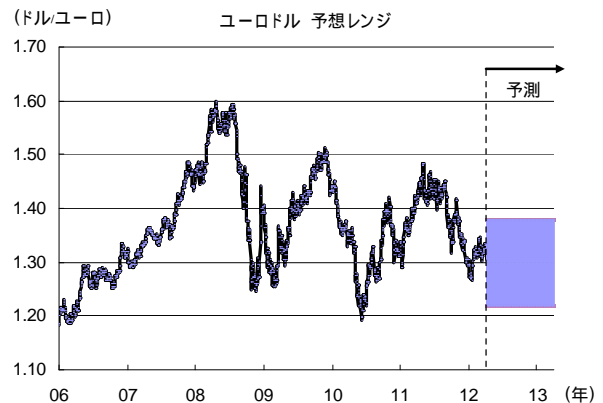
出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔為替 ドル円〕



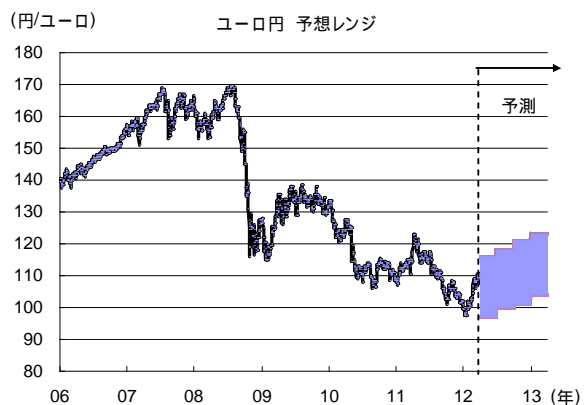
出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔為替 ユーロドル〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔為替 ユーロ円〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

*「市場見通し(まとめ)」は、本資料作成時における見解であり、将来を示唆、保証するものではありません。

【当資料で使用するデータについて】

MSCI ドイツインデックスは MSCI が開発した株価指数で、ドイツの株式市場の動きを捉える指数です。当インデックスに関する全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その正確性及び完全性を MSCI は何ら保証するものではありません。その著作権は MSCI に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

【参考】当面の主要な政治・経済カレンダー

| 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|---|---|--|---|---|
| 4/2 日銀短観(3月調査、8:50) 3月新車販売台数(14:00) (米) 3月ISM製造業景況指数 4/1 (中) 3月PMI製造業 | 4/3 3月マネタリーベース(8:50) 2月毎月勤労統計(10:30) (米) FOMC議事録(3/13) (米) 2月製造業受注指数 | 4/4 (英) 中銀 金融政策委員会 (MPC、~5日) (EU) ECB理事会 (米) 3月ISM非製造業景況指数 | 4/5 | 4/6 2月景気動向指数(速報値、14:00) (米) Good Friday (米) 3月雇用統計 |
| 4/9 2月国際収支(速報値、8:50) 3月景気ウォッチャー調査(14:00) 日銀金融政策決定会合(~10日) (中) 3月消費者物価指数 (米) Easter Monday | 4/10 (中) 3月貿易収支 (米) 2月卸売在庫 (米) 3月中小企業楽観指数 | 4/11 2月機械受注(8:50) 3月貸出・資金吸収動向(8:50) 4日日銀金融経済月報(14:00) (米) 3月輸入物価指数 (米) 地区連銀景況報告(ベージュブック) | 4/12 3月企業物価指数(8:50) 3月マネーストック(8:50) (米) 2月貿易収支 (米) 3月PPI | 4/13 日銀金融政策決定会合議事要旨(3月13日、8:50) (中) 12/1Q 実質GDP (米) 3月CPI (米) 4月ミンガン大学消費者信頼感指数(速報値) |
| 4/16 (米) 2月企業在庫 (米) 3月小売売上高 (米) 4月ニューヨーク連銀指数 | 4/17 2月鉱工業生産(確報値、13:30) 3月消費動向調査(14:00) (英) 3月CPI (独) 4月ZEW景況感調査 (EU) 1-0圏 3月CPI(確報値) (米) 3月鉱工業生産 (米) 3月住宅着工・建設許可件数 | 4/18 | 4/19 3月貿易統計(8:50) (米) 3月中古住宅販売件数 (米) 3月景気先行指数 (米) 4月フィラデルフィア連銀指数 | 4/20 2月第3次産業活動指数(8:50) (独) 4月IFO景況感指数 (EU) 1-0圏4月PMI(速報値)* G20財務相・中央銀行総裁会議(ワシントン) IMF・世界銀行春季総会(ワシントン、~22日) 4/22 フランス大統領選挙(第1回) |
| 4/23 2月景気動向指数(改定値、14:00) (中) 4月HSBC製造業PMI(速報値)* | 4/24 (米) 2月S&Pケース・シラー米住宅価格 (米) 3月新築住宅販売件数 (米) 4月消費者信頼感指数 (米) 3月耐久財新規受注 (米) FOMC(~25日) | 4/25 | 4/26 2月全産業活動指数(13:30) (EU) 1-0圏 4月景況感サーベイ | 4/27 3月家計調査(8:30) 3月完全失業率(8:30) 3月鉱工業生産(速報、8:50) 3月住宅着工件数(14:00) 日銀金融政策決定会合 (米) 12/1Q実質GDP(速報値) |
| 4/30 振替休日 (EU) 1-0圏 3月マネーサプライ (EU) 1-0圏 4月CPI(速報値) | | | | |

注: 4月5日時点。公表予定日、公表時刻は変更される場合があります。*は日時未確定。

出所: Bloomberg、各種HPよりTDAM作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

【リスク情報】

(1) 国内株式

発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動して、投資元本を割込むことがあります。流動性の低い銘柄においては、流動性の高い銘柄に比べて株価の変動率が大きく、売買に支障をきたす可能性があります。発行者が民事再生手続や破産等になった場合、投資元本を大幅に下回り、全額を回収できなくなることがあります。

(2) 外国株式

前記の国内株式に関するリスクに加えて、外国為替市場の変動により、投資元本を割込むことがあります。発行者が主に外国で企業活動を行っており、外国の金融商品取引所(または店頭市場)に上場されていることから、各国における政治・経済・社会情勢の変動等により、企業業績の悪化、株式の売買が制限される等、売買や受渡等が不能になる場合があります。また、通貨不安の発生により、大幅な為替変動が起こり、円への交換が制限される、あるいはできなくなる場合があります。そのほか外貨建株式の取扱いは、それぞれの外国の売買制度や課税制度等に準じますが、これら制度等の変更が行われる場合があります。

(3) 国内債券

債券の価格は金利の変動等により上下しますので、償還前に売却する場合には、投資元本を割込むことがあります。また発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割込むことがあります。

(4) 外貨建債券

前述した国内債券に関するリスクに加えて、外国為替市場の変動により投資元本を日本円で受取る場合、投資元本を割込むことがあります。外国の政府や企業が発行者となる場合、国内債券と同様に信用リスクがあります。外国における政治・経済・社会情勢の変動等により、売買が制限される等、売買や受渡等が不能になる場合があります。また通貨不安が発生して、大幅な為替変動が起こり、円への交換が制限される、あるいはできなくなる場合があります。そのほか外貨建債券の取扱いは、それぞれの外国の売買制度や課税制度等に準じますが、これら制度等の変更が行われる場合があります。

(5) 国内新株予約権付社債

国内新株予約権付社債の価格は、転換の対象となる株式の価格変動や金利変動の影響、あるいは発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により上下しますので、投資元本を割込むことがあります。流動性の低い銘柄においては、流動性の高い銘柄に比べて価格の変動率が大きく、売買に支障をきたす可能性があります。発行者が民事再生手続や破産、あるいは債務不履行等になった場合、利払いが行われなくなる・全額が償還されないことがあります。また、投資元本を大幅に下回り、全額を回収できなくなることがあります。株式への転換を請求できる期間が限定されています。

(6) 投資信託

組入れた有価証券の価格変動により基準価額が変化し、投資元本を割込むことがあります。また組入れた有価証券の発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により投資元本を割込むことがあります。外貨建の有価証券を組入れる場合には、これらのリスクに加え外国為替市場の変動により、投資元本を割込むことがあります。なおクローズド期間中は換金ができないよう設定されています。

(7) 先物・オプション取引

対象とする原資産等の変動により価格が上下しますので、これにより差損が生じることがあります。またオプション取引の場合、オプションを行使できる期間が限定されています。

【お客様にご負担いただく費用等について】

投資信託に係る費用等について

投資者が直接的に負担する費用: 購入時手数料・・・**上限 3.675%(税込)**
信託財産留保額・・・**上限 0.5%**

投資者が信託財産で間接的に負担する費用: 運用管理費用(信託報酬)・・・**上限 年 1.995%(税込)**

その他費用・手数料: 上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。

投資信託証券を組み入れる場合には、間接的にご負担いただく費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの間接的な費用のご負担額にしましては、その時々各投資信託証券の組入比率や取引内容等により金額が変動しますので、予めその料率、上限額等を具体的に示すことができません。

当該手数料等の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、T&D アセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。詳しくは**投資信託説明書(交付目録見書)**でご確認ください。

投資一任契約、投資顧問契約に係る報酬等について

(1) 投資一任契約、投資顧問契約に係る報酬額は、下記 または と の組合せにより、お客様との協議に基づいて決定させていただきます。

定額報酬型

お客様の契約資産額に、一定の料率を乗じて算出します。料率は 2.1%(税込)を上限とし、契約資産額や運用手法、サービス内容等の事情に鑑み、個別協議により報酬額を決定させていただきます。

成功報酬型

成功報酬の割合については、予め取り決めたベンチマーク等を超過した収益部分の 21%(税込)を上限とし、お客様の契約資産額や運用手法、サービス内容等の事情に鑑み、個別協議により決定させていただきます。

(2) その他証券取引に伴う手数料、有価証券売買時に売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、等。(その他の費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。)

(3) 報酬額には消費税額を含むものとします。

(4) その他契約資産において株式等を保有している場合には、配当金等に対して、源泉税等がかかります。

投資一任契約締結後、運用資産に投資信託受益証券等を組入れる場合には、当該投資信託受益証券等の購入・保持にかかる信託報酬・手数料・管理費用・税金等はお客様のご負担となります。

上記で組入れた受益証券等に係る財産が他の投資信託受益権等に出資され、または拠出される場合にかかる費用については、投資対象が多岐にわたり、条件等も異なること、また随時投資対象が変更されることから、購入・保持にかかる信託報酬・手数料・管理費用・税金等については、予め明示できません。

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P33 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。